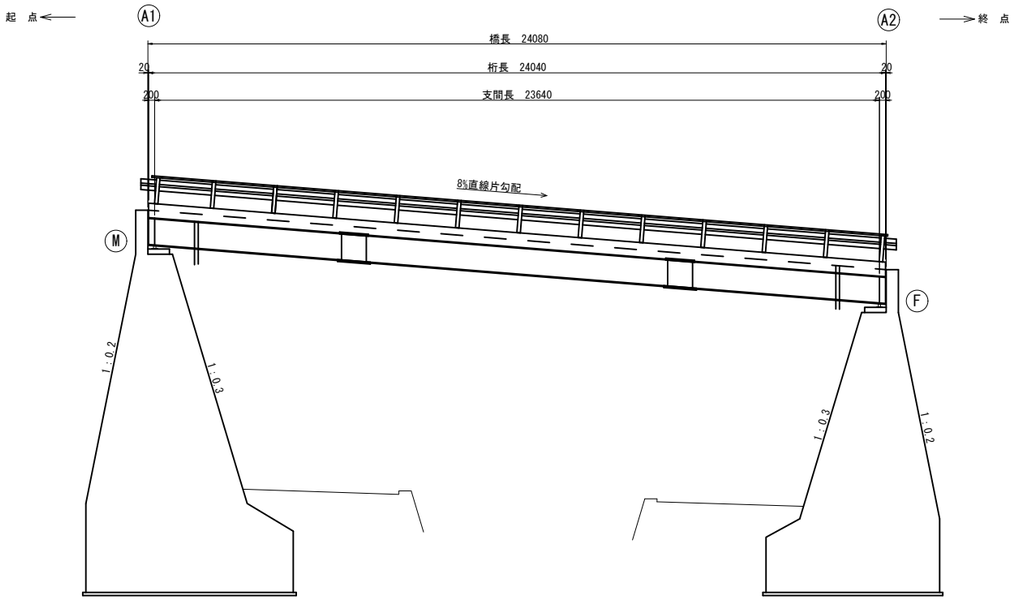
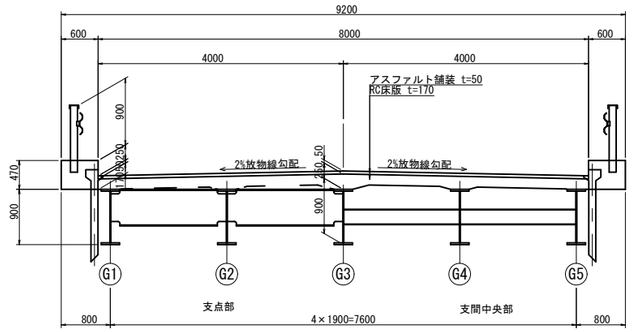
日向橋　現況一般図

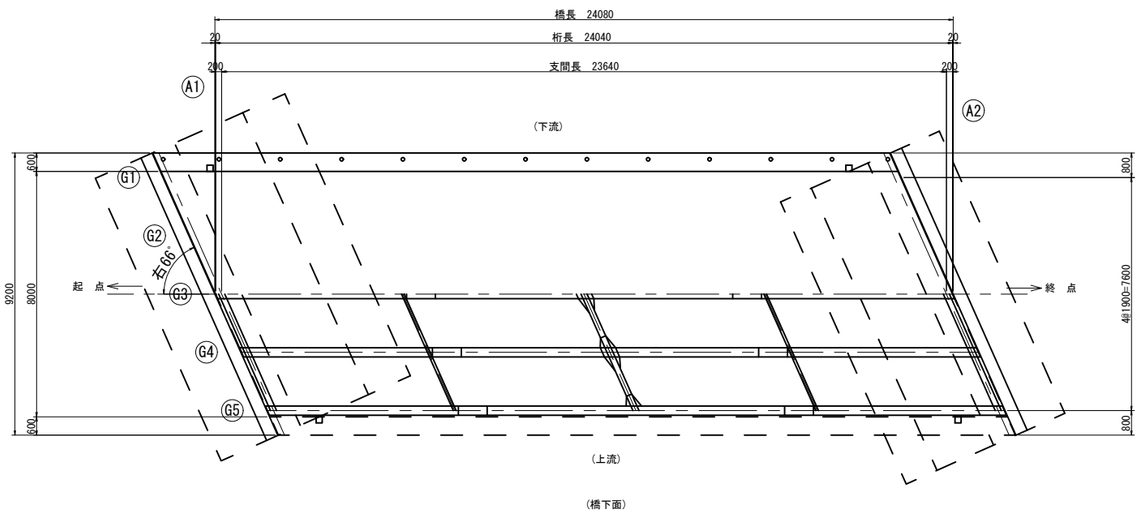
側　面　図 S=1：100



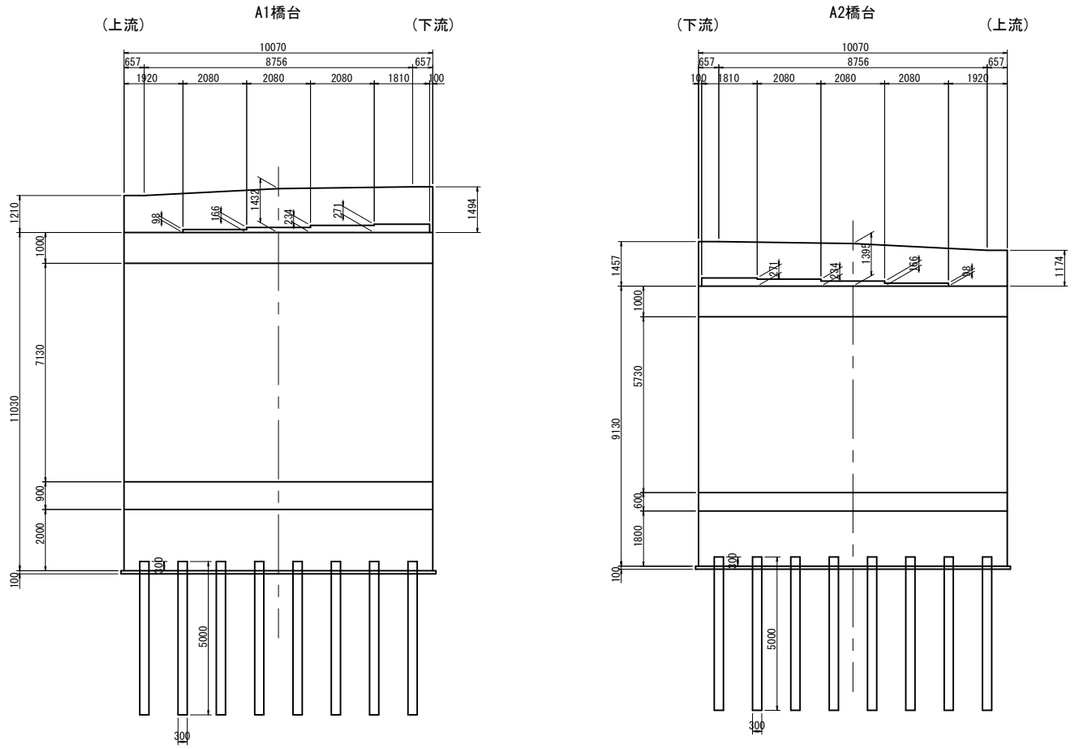
上部工断面図 S=1：50



平　面　図 S=1：100



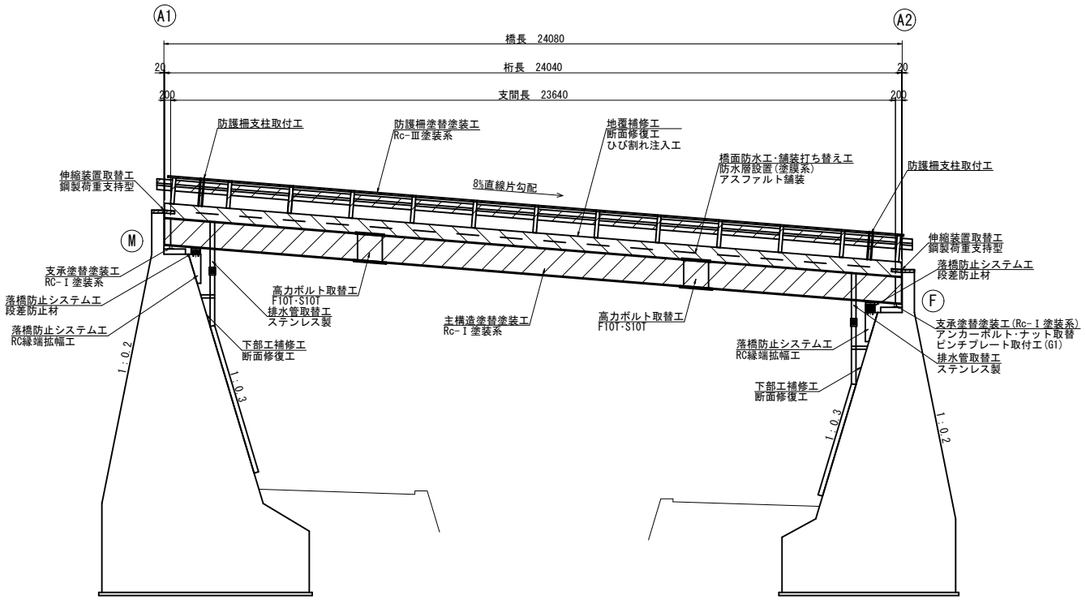
下部工断面図 S=1：100



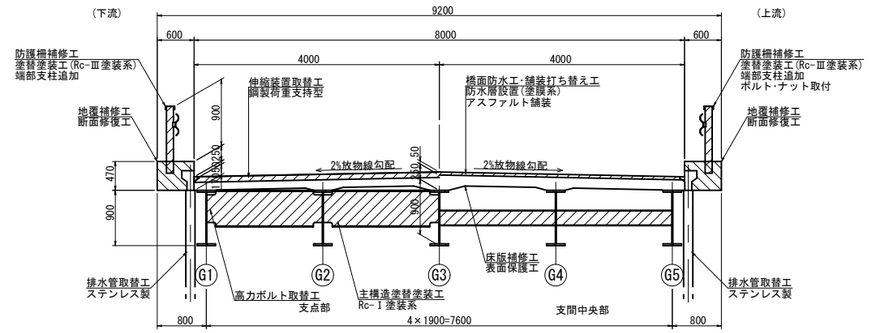
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	1/25	現況一般図	縮尺	図示	
町道1号線 箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

日向橋　補修一般図

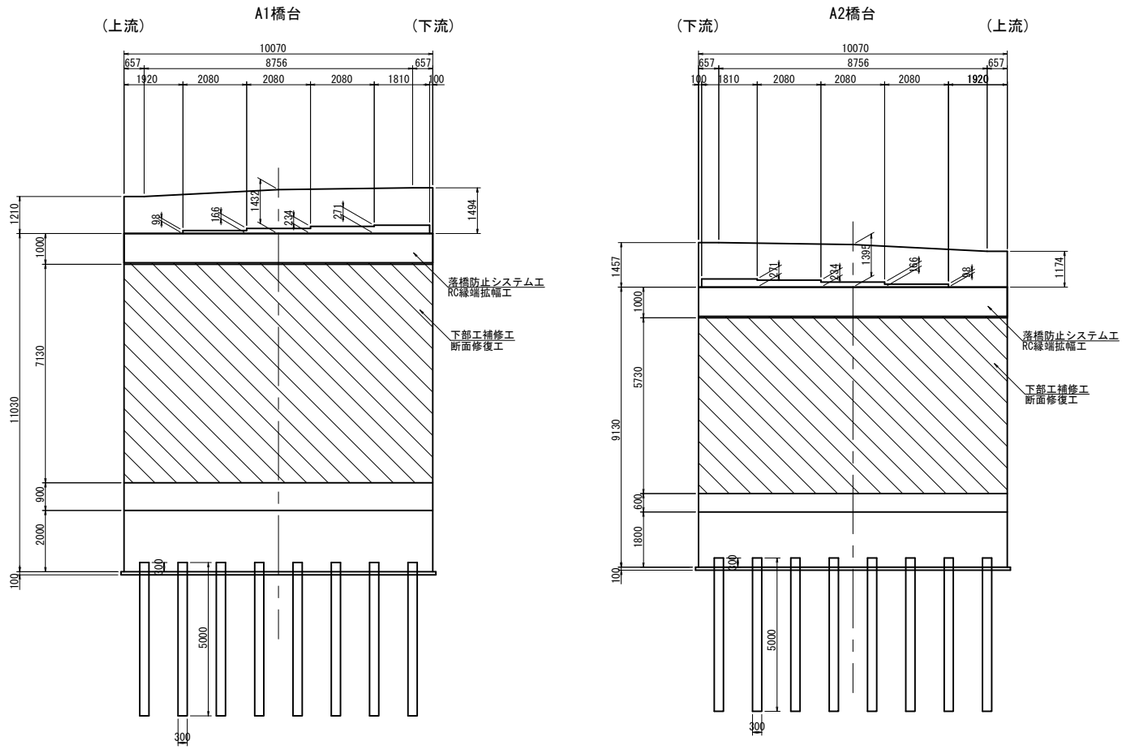
側　面　図 S=1：100



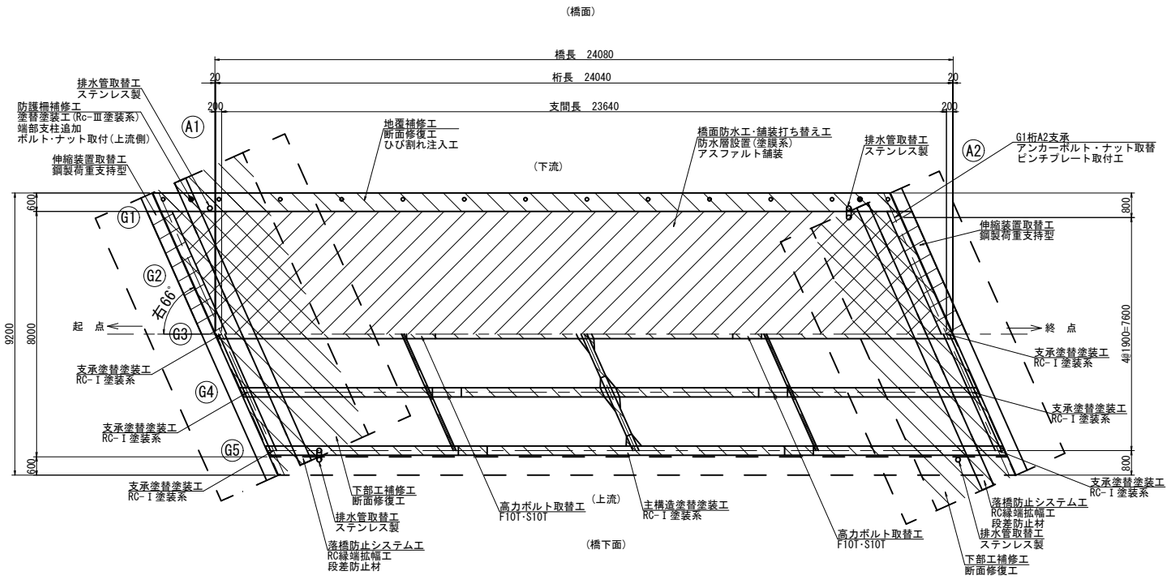
上部工断面図 S=1：50



下部工断面図 S=1：100



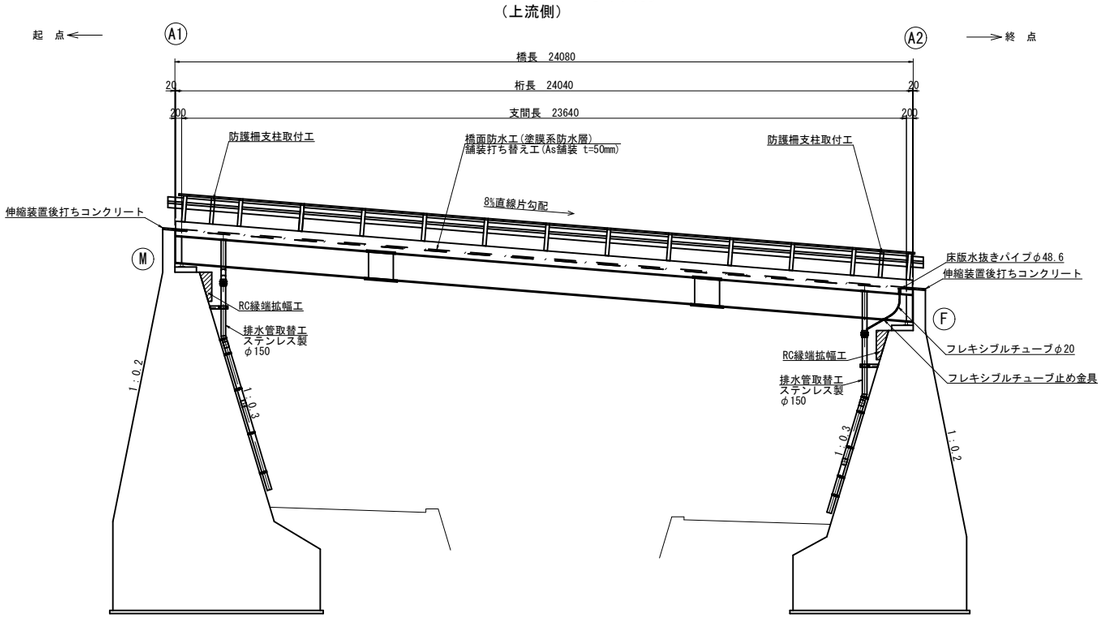
平　面　図 S=1：100



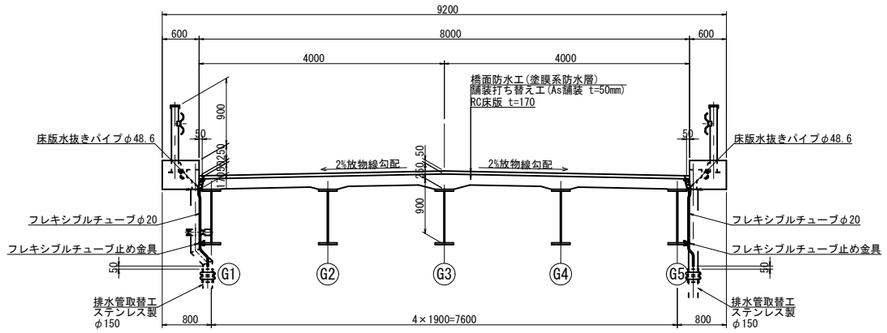
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	2/25	補修一般図		縮尺	図示
町道1号線					
箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

日向橋　橋面防水工詳細図(その1)

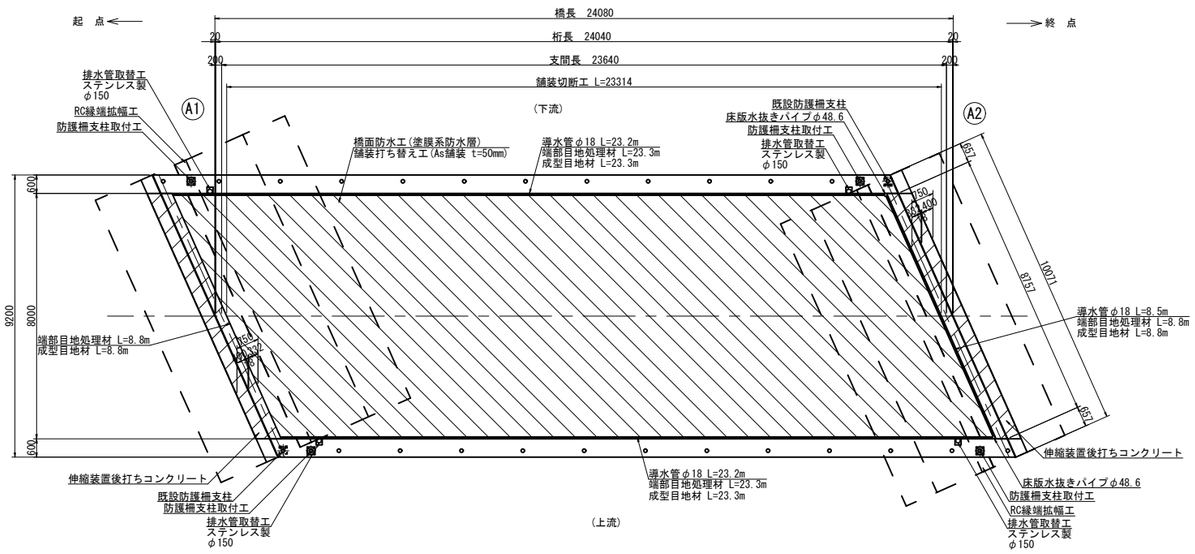
側　面　図 S=1：100
（上流側）



上部工断面図 S=1：50



平　面　図 S=1：100



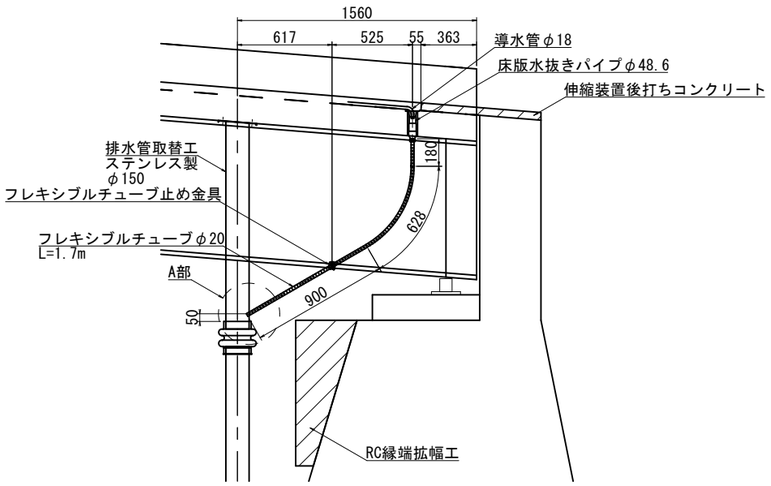
注1)床版をコア抜きする際に、事前に鉄筋探査を行い鉄筋を切断しないようにすること。
2)　　〃　　所定の角度で主桁上フランジを削孔しないよう注意すること。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 3/25	橋面防水工詳細図(1)	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

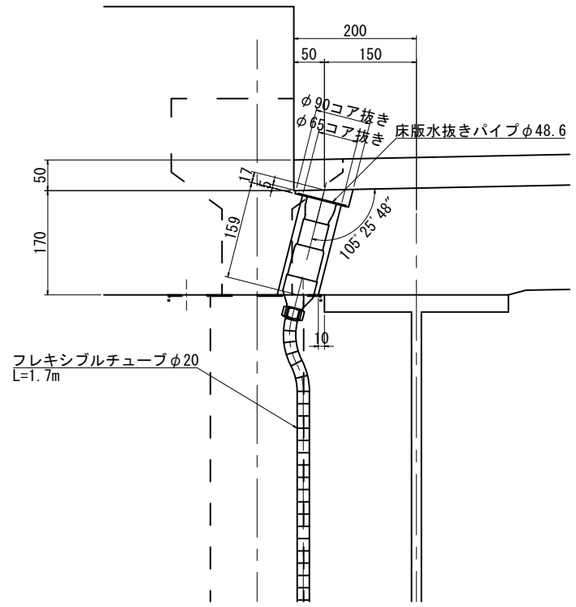
日向橋　橋面防水工詳細図(その2)

床版水抜きパイプ設置詳細図

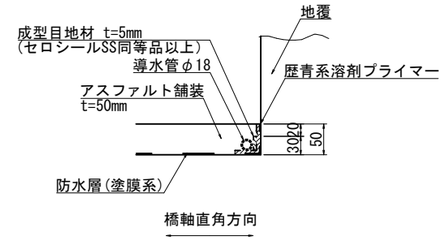
側面図 S=1:20



断面図 S=1:5

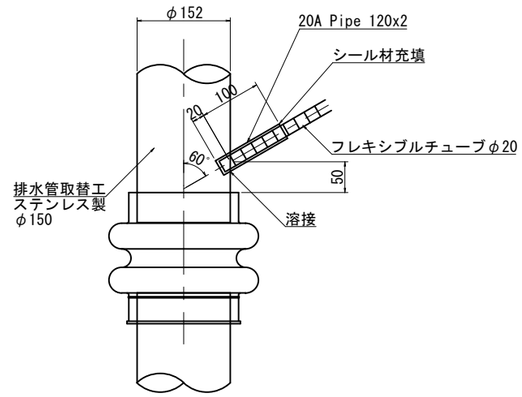


舗装端部処理詳細図 S=1:5



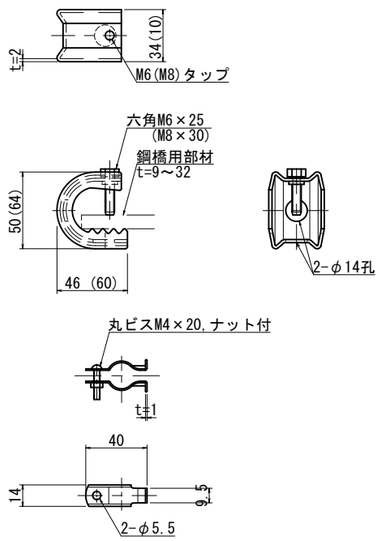
フレキシブルチューブ接続部詳細図 S=1:5

(A部)

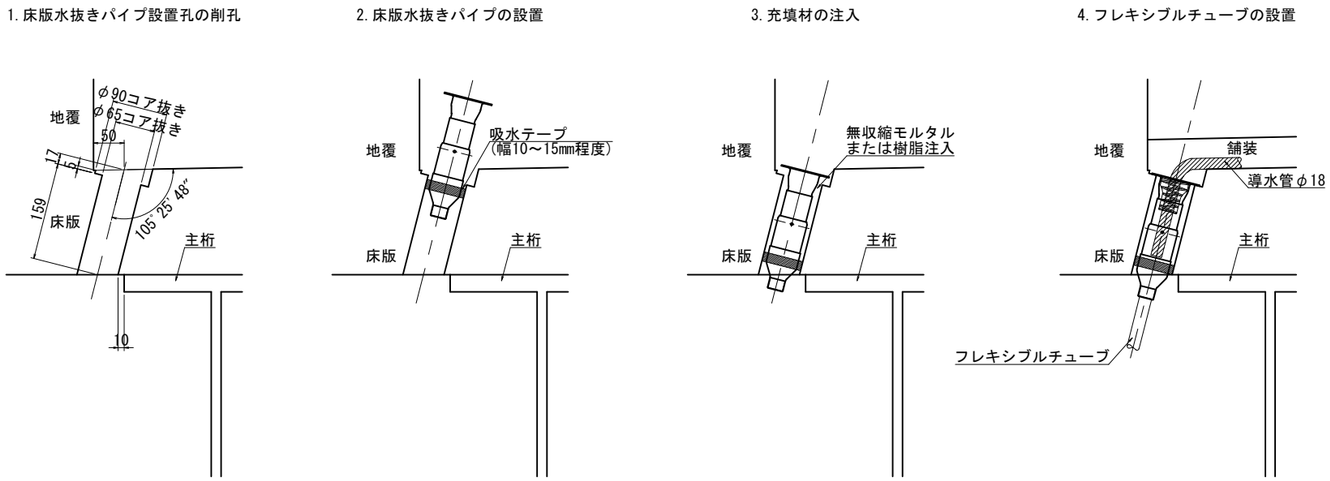


フレキシブルチューブ止め金具詳細図 S=1:2

鋼桁用止金具　締付け板厚t=　9～24
(締付け板厚t= 17～32)



床版水抜きパイプ施工手順図 S=1:5



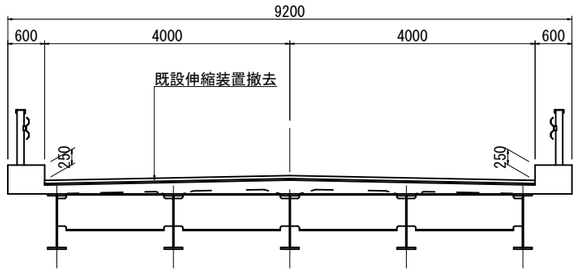
注1)床版をコア抜きする際に、事前に鉄筋探査を行い鉄筋を切断しないようにすること。
2)　　〃　　所定の角度で主桁上フランジを削孔しないよう注意すること。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	4/25	橋面防水工詳細図(2)	縮尺 図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

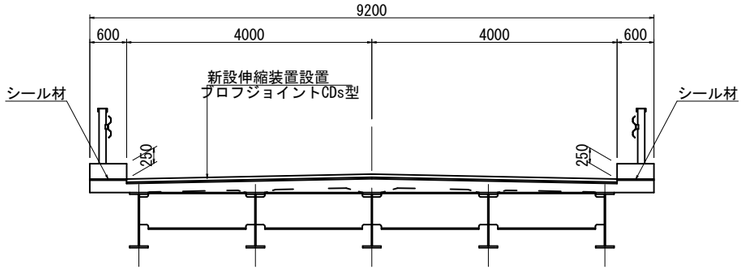
日向橋　伸縮装置補修図

断　面　図 S=1:50

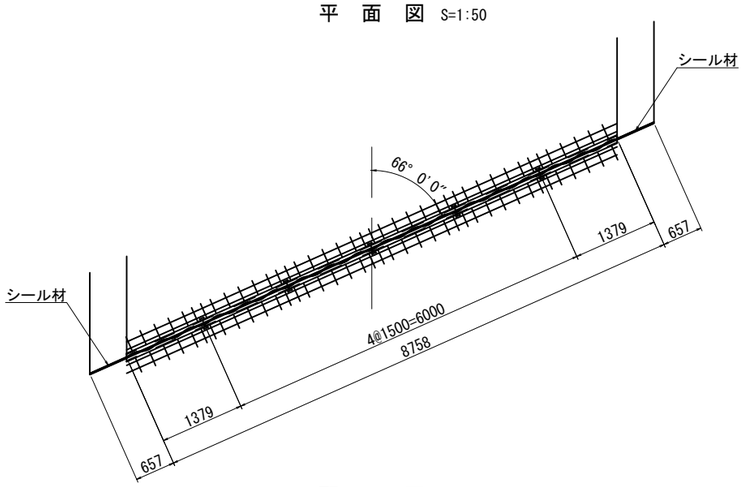
（補修前）



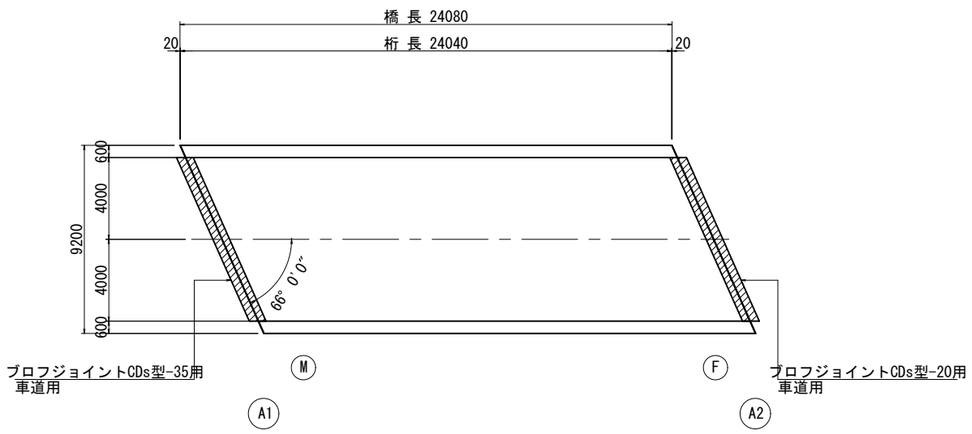
（補修後）



平　面　図 S=1:50

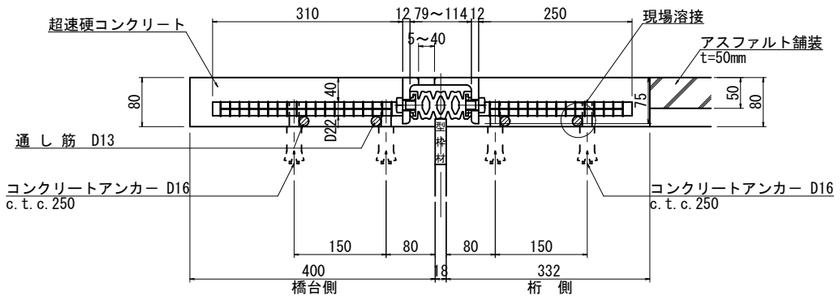


配　置　図 S=1:150

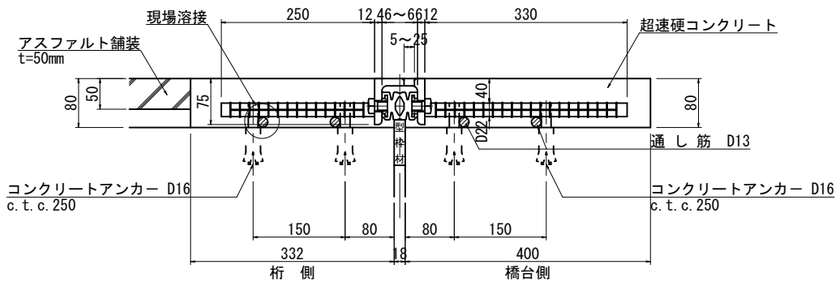


伸縮装置断面図 S=1:5

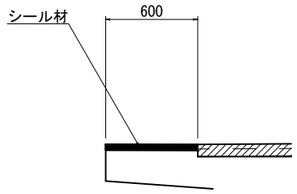
プロフジョイントCDs型-35用
A1部　車道用



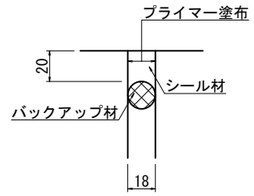
プロフジョイントCDs型-20用
A2部　車道用



シール材処理部断面図 S=1:20

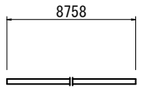


シール材充填図 S=1:2



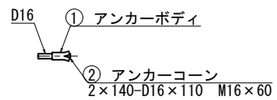
鉄筋加工図 S=1:10

(E1)　補 強 鉄 筋



2×4-D13×8758

(T1)　コンクリートアンカー M16×60
（アンカー鉄筋　D16×110）



補 修 数 量 表

名　　名		寸　法・材　質	単　位	A1数量	A2数量	合　計	備　　考
プロフジョイントCDs型-35用		SS400 SR235 SD345 合成ゴム	m	8.758		8.758	
プロフジョイントCDs型-20用		〃	〃		8.758	8.758	
補強鉄筋	(E1)	4-D13x8.758x0.995	kg	34.9	34.9	69.8	
コンクリートアンカー	(T1)	M16x60(D16x110)	本	140	140	280	（アンカー鉄筋込）
超速硬コンクリート			m3	0.441	0.469	0.910	
シール材		シリコン系 比重＝1.02	kg	0.483	0.483	0.966	
バックアップ材		ウレタン系	m	1.314	1.314	2.628	

撤 去 数 量 表

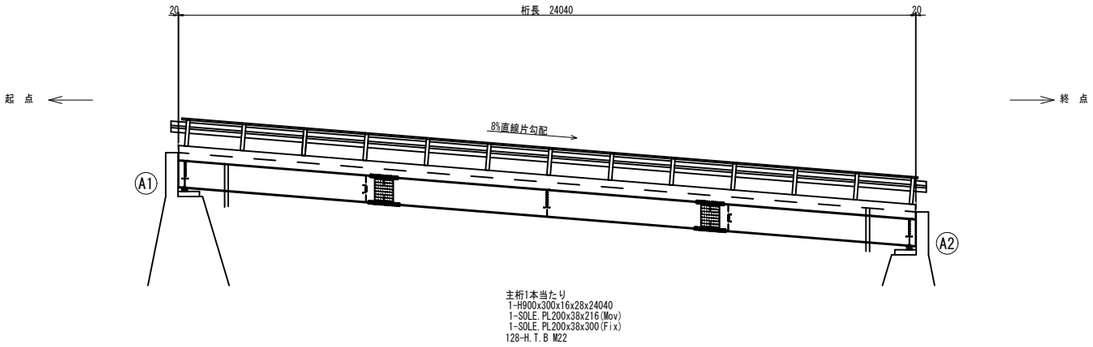
名　　名	寸　法・材　質	単　位	A1数量	A2数量	合　計	備　　考
既設伸縮装置		m	8.758	8.758	17.516	
後打コンクリート		m3	0.525	0.525	1.050	

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 5/25	伸縮装置補修図	縮尺	図示
町道1号線 箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕 輪 町 役 場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

日向橋　主構造補修図(その1)

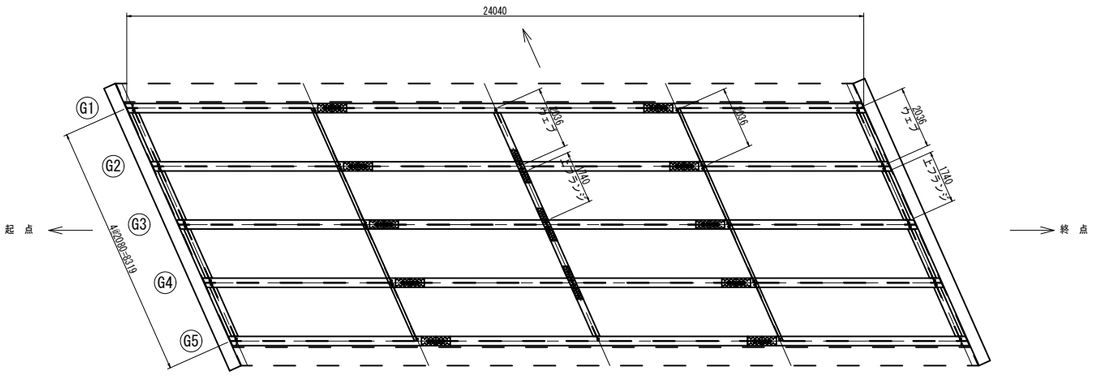
主構造塗替塗装工詳細図

側面図 S=1:100

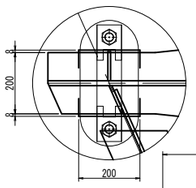


平面図 S=1:100

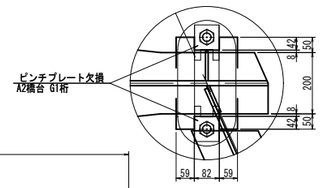
上フランジ
(1-1)



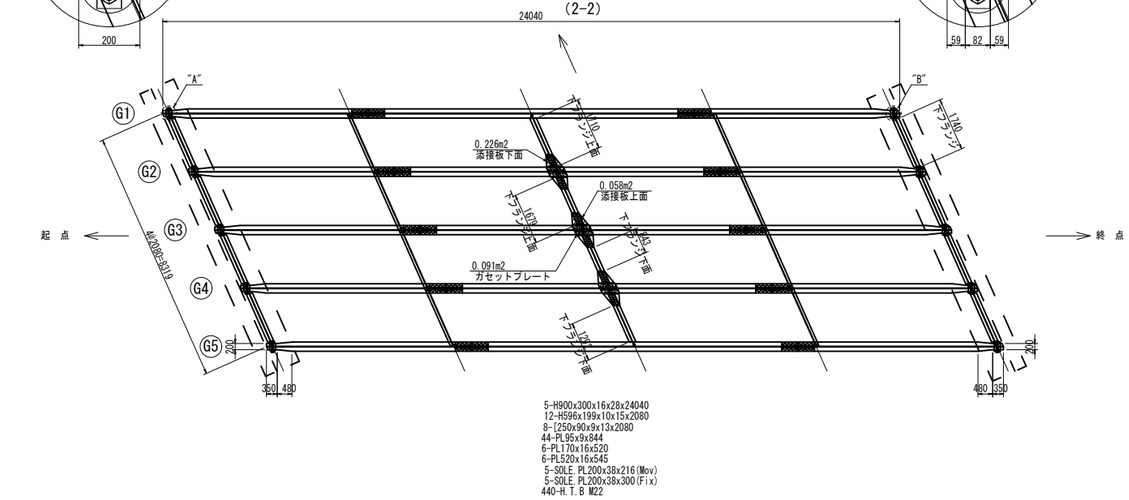
"A"部詳細図 S=1:10



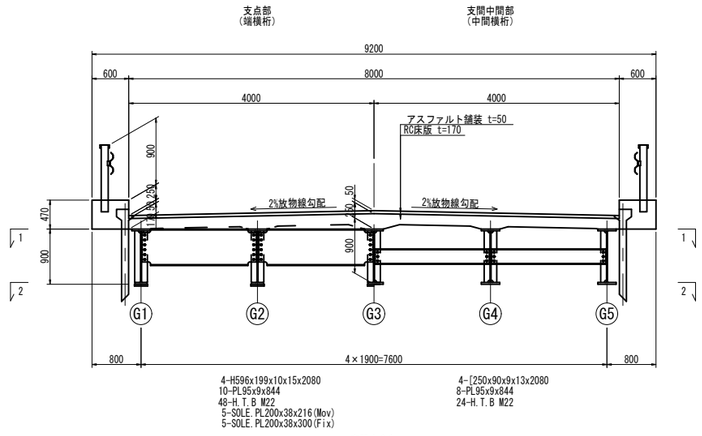
"B"部詳細図 S=1:10

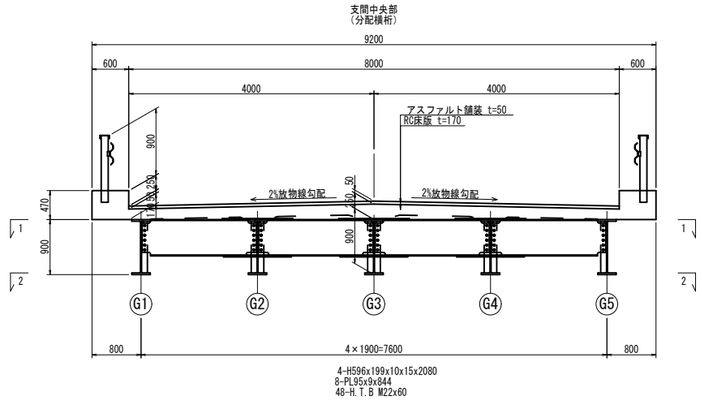


下フランジ
(2-2)



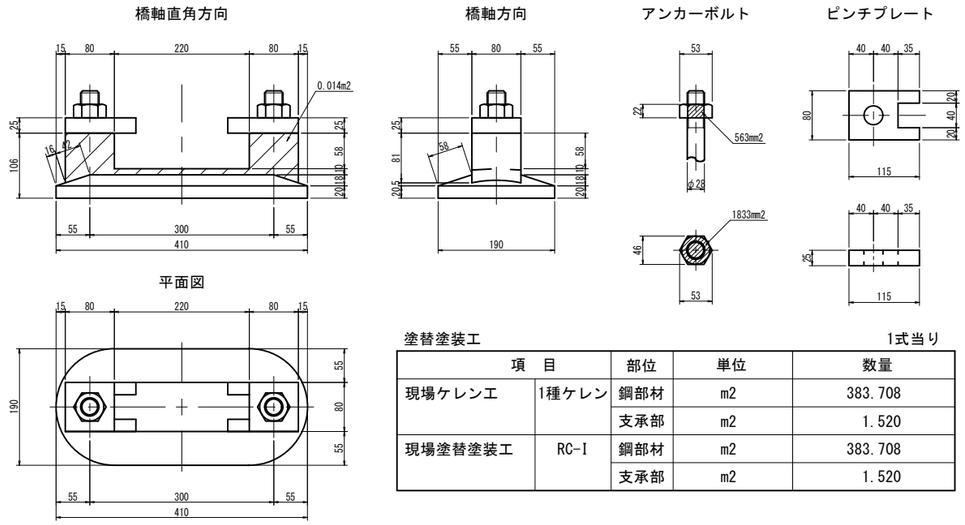
横桁詳細図 S=1：50





支承詳細図 S=1：5

S-45型沓
(S45-58)



塗替塗装工　　1式当り

項　目		部位	単位	数量
現場ケレン工	1種ケレン	鋼部材	m2	383.708
		支承部	m2	1.520
現場塗替塗装工	RC-I	鋼部材	m2	383.708
		支承部	m2	1.520

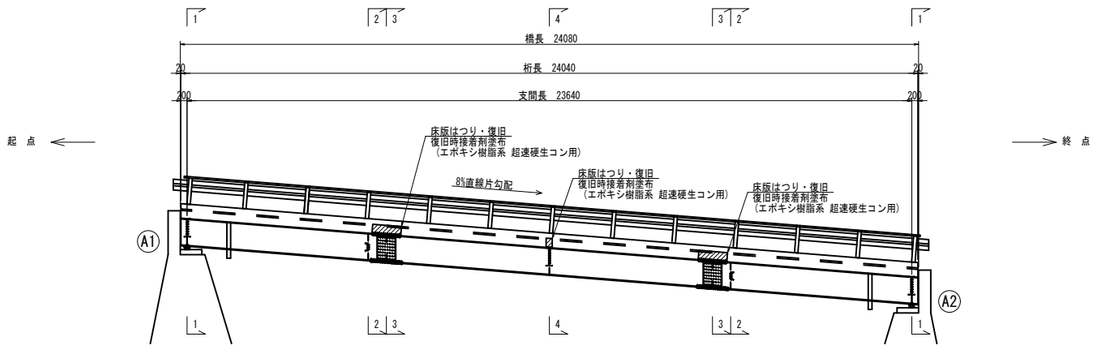
注)1.部材寸法は既往の資料及びH-BB-C設計資料を基に作成しているため、
　　現場実測のうえ、製作・施工すること。
　　2.塗装色は監督員と協議の上決定すること。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	6/25	主構造補修図(1)		縮尺	図示
町道1号線					
箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

日向橋　主構造補修図(その2)

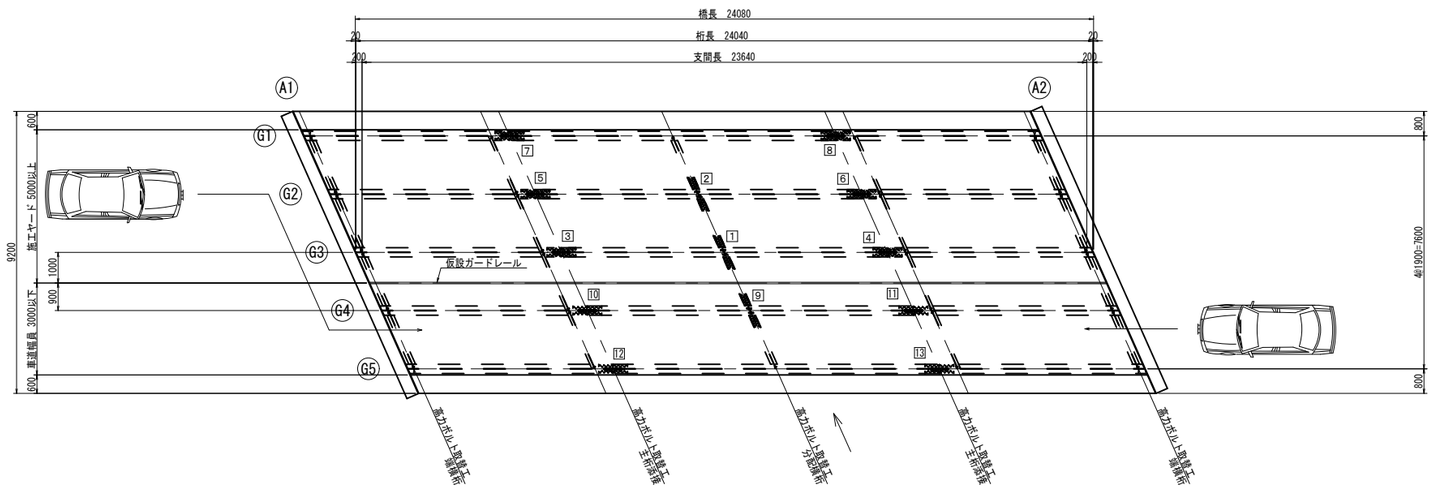
高力ボルト取替工(1)

側面図 S=1:100

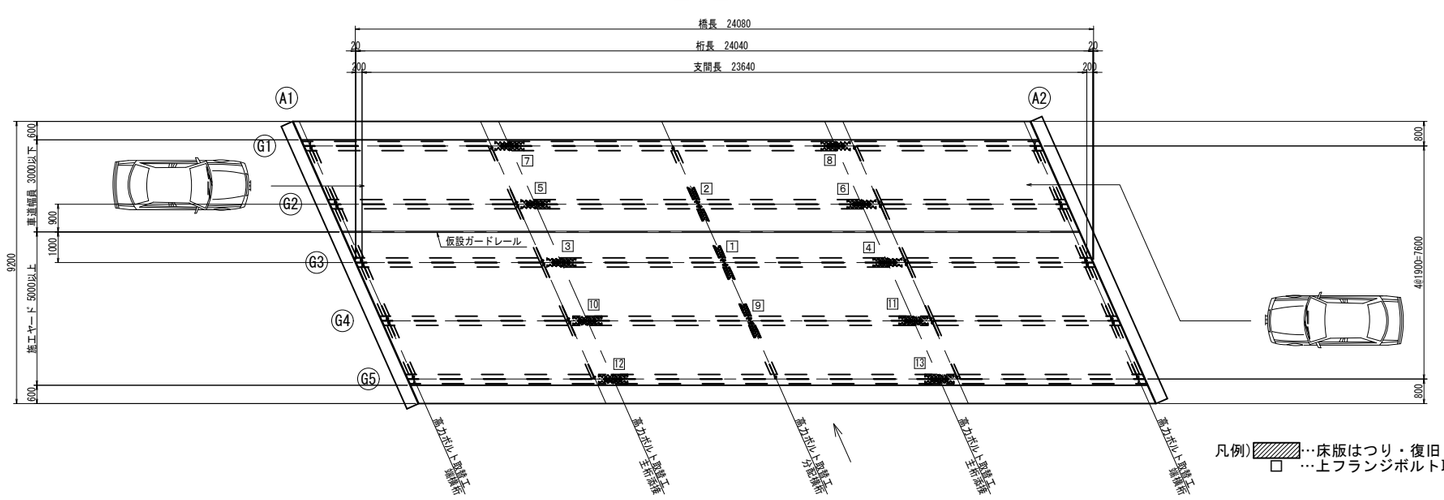


平面図 S=1:100

1次施工
左側車線施工時
(1～8施工時)



2次施工
右側車線施工時
(9～13施工時)



凡例)▨…床版はつり・復旧
□…上フランジボルト取替順

高力ボルト取替工　施工手順

STEP1　交通規制(片側交互通行)
(仮設ガードレール設置)
STEP2　アスファルト舗装切断
STEP3　アスファルト舗装撤去
STEP4　床版コンクリート取り壊し
(ウォータージェット工法)
STEP5　旧高力ボルト取り外し
STEP6　新高力ボルト取り付け
STEP7　軸力導入
STEP8　検査
(1本ずつ行う)
STEP9　上フランジ上面(添接板)塗装
STEP10　床版コンクリート打設
(超速硬コンクリート)
(繰り返し)
STEP11　路面復旧
(橋面防水･アスファルト舗装)
STEP12　反対車線施工
(仮設ガードレール移動･設置)
STEP13　STEP3～11施工
STEP14　交通規制解除
(仮設ガードレール撤去)

注)1.部材寸法は既往の資料及びH-BB-C設計資料を基に作成しているため、現場実測のうえ、製作・施工すること。
2.ボルトの取替は添接板中心の列から外側に向かって1本ずつ行うこと。
3.ボルトの取替は、中間横桁(溝形鋼)取付ボルト(F10T)以外の全てのボルト(F11T)とする。(中間横桁(溝形鋼)取付ボルトについては、既設の高力ボルトがF10Tのため取替は不要)

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	7/25	主構造補修図(2)		縮尺	図示
町道1号線					
筑輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
筑　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

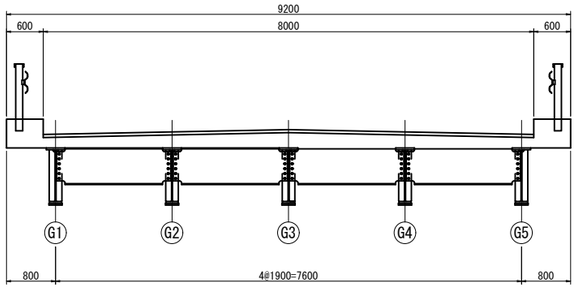
※施工に関しては参考図

日向橋　主構造補修図(その3)

高力ボルト取替工(2)

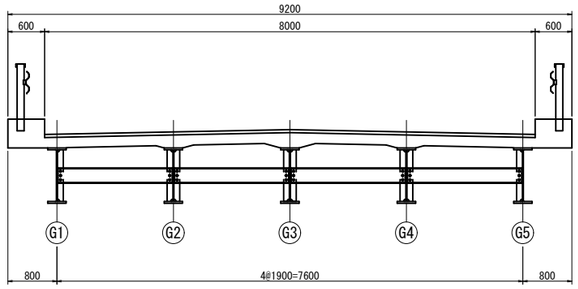
上部工断面図　S=1：50

端横桁
(1-1)



12-T.C.B M22x55(S10T)/箇所

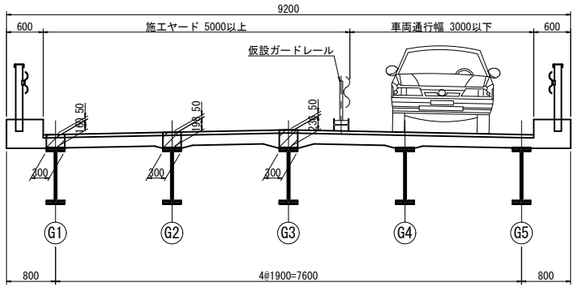
中間横桁
(2-2)



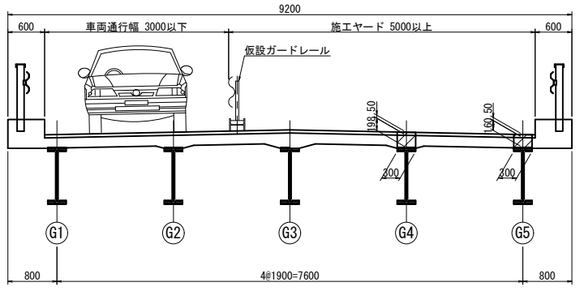
取付ボルトF10Tのため、取替不要

主桁添接
(3-3)

1次施工
左側車線施工時
(1～8施工時)



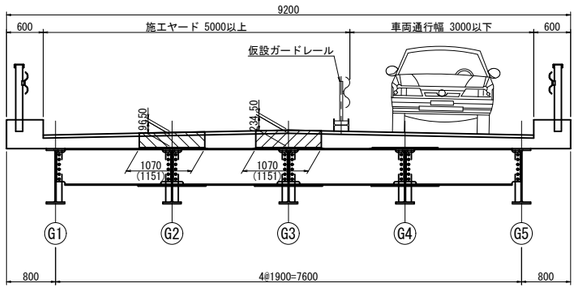
2次施工
右側車線施工時
(9～13施工時)



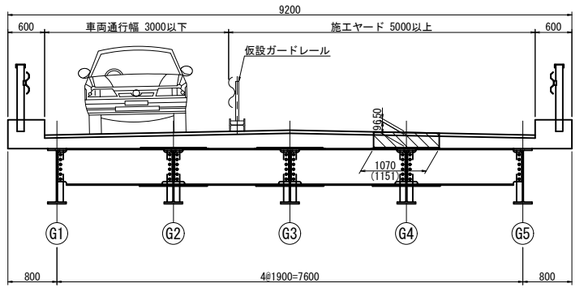
U.FLG 28-H.T.B M22x100(F10T)/箇所
WEB　64-T.C.B M22x 75(S10T)/箇所
L.FLG 32-T.C.B M22x105(S10T)/箇所

分配横桁
(4-4)

1次施工
左側車線施工時
(1～8施工時)



2次施工
右側車線施工時
(9～13施工時)



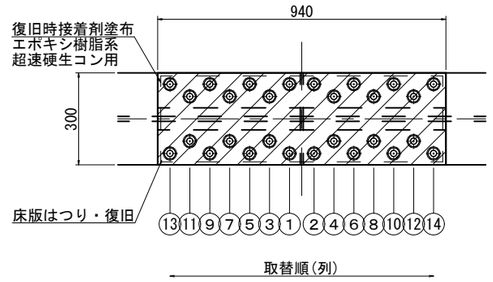
U.FLG 20-H.T.B M22x75(F10T)/箇所
4-H.T.B M22x85(F10T)/箇所
WEB　12-T.C.B M22x55(S10T)/箇所
L.FLG 40-T.C.B M22x70(S10T)/箇所

注)車両通行幅は、地覆内側より仮設ガードレール
内側までを3.0m以下とする。

凡例)▨…床版はつり・復旧

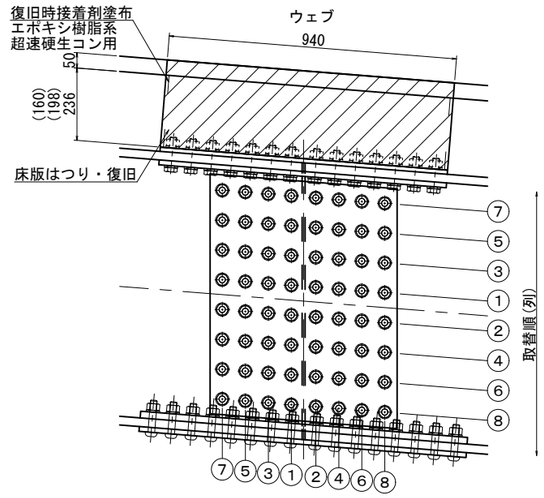
主桁添接部詳細図　S=1:10

3～8・10～13
上フランジ



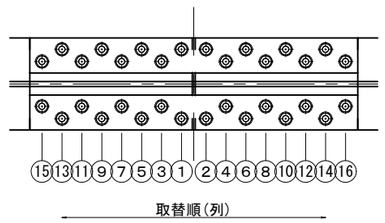
28-H.T.B M22x100(F10T)/箇所

ウェブ



64-T.C.B M22x75(S10T)/箇所

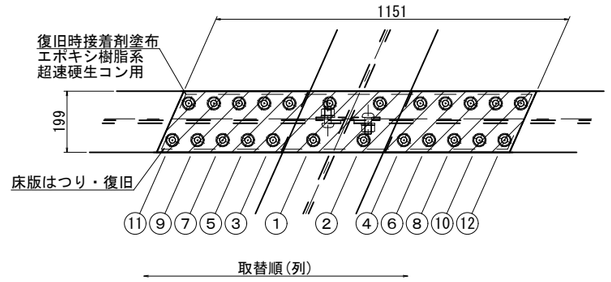
下フランジ



32-T.C.B M22x105(S10T)/箇所

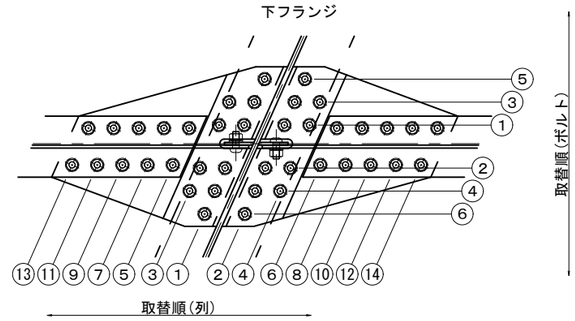
分配横桁詳細図　S=1:10

1・2・9
上フランジ



20-H.T.B M22x75(F10T)/箇所(3～12)
4-H.T.B M22x85(F10T)/箇所(1・2)

下フランジ



40-T.C.B M22x70(S10T)/箇所

高力ボルト取替工　施工手順

STEP1　交通規制(片側交互通行)
(仮設ガードレール設置)
STEP2　アスファルト舗装切断
STEP3　アスファルト舗装撤去
STEP4　床版コンクリート取り壊し
(ウォータージェット工法)
STEP5　旧高力ボルト取り外し
STEP6　新高力ボルト取り付け
STEP7　軸力導入
STEP8　検査
STEP9　上フランジ上面(添接板)塗装
STEP10　床版コンクリート打設
(超速硬コンクリート)
STEP11　路面復旧
(橋面防水・アスファルト舗装)
STEP12　反対車線施工
(仮設ガードレール移動・設置)
STEP13　STEP3～11施工
STEP14　交通規制解除
(仮設ガードレール撤去)

1本ずつ行う　繰り返し

注)1.部材寸法は既往の資料及びH-BB-C設計資料を基に作成しているため、
現場実測のうえ、製作・施工すること。
2.ボルトの取替は添接板中心の列から外側に向かって1本ずつ行うこと。
3.ボルトの取替は、中間横桁(溝形鋼)取付ボルト(F10T)以外の全ての
ボルト(F11T)とする。(中間横桁(溝形鋼)取付ボルトについては、
既設の高力ボルトがF10Tのため取替は不要)

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 8/25	主構造補修図(3)	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

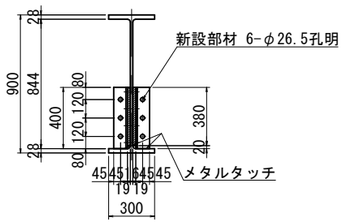
※施工に関しては参考図

日向橋　支承補修図(その1)

(A2橋台 G1桁)

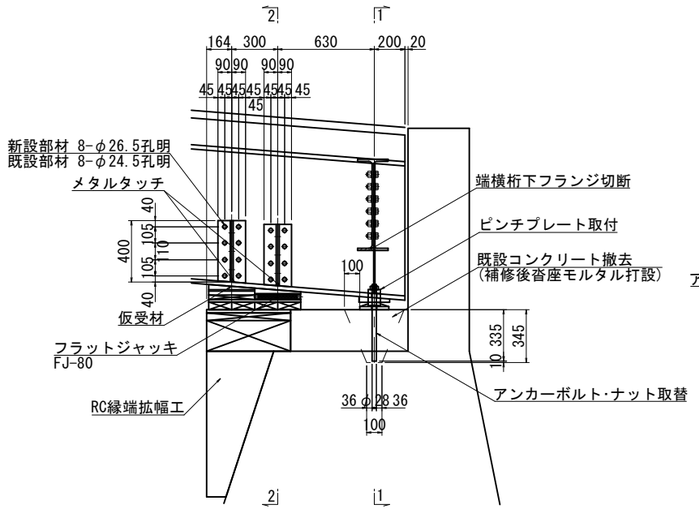
ジャッキアップ補剛材詳細図 S=1:20
(仮支点補強材)

2-2

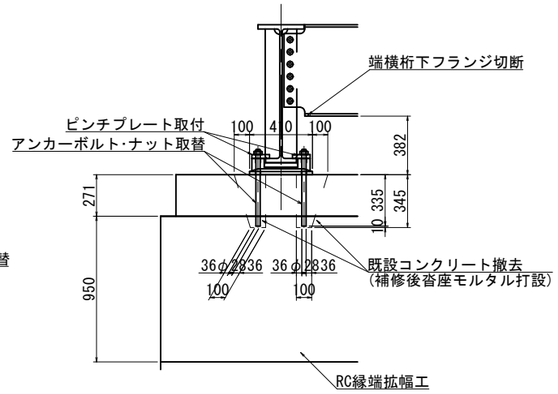


製作数:2
4-L90x90x10x400(SS400)
4-FILL PL90x19x380(SS400)
8-H.T.B M22x115(F10T)
(ボルト孔塞ぎとして残す)
6-H.T.B M22x60(F10T)

側面図

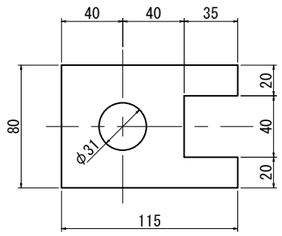


1-1

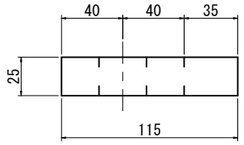


ピンチプレート詳細図 S=1:2

平面図

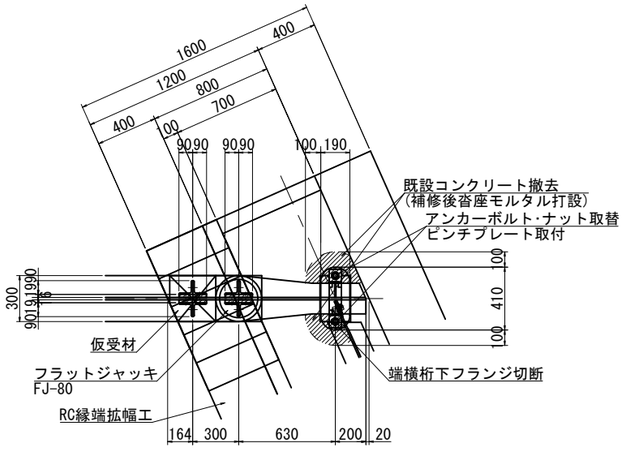


側面図

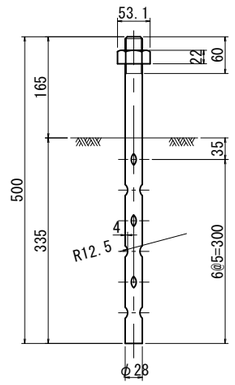


2-PL80x25x115(SS400) W=1.383kg/個

平面図



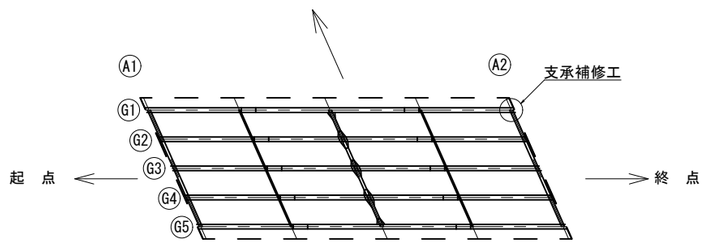
アンカーボルト詳細図 S=1:5



数量表

名称			単位	数量
鋼重	SS400	L 90x90x10	kg	42.6
		PL t=19	kg	40.8
	F10T	HTB M22	kg	17.4
			本	28
鋼桁現場孔明工		φ24.5	個	16
アンカーボルト・ナット		φ28x500	組	2
ピンチプレート		PL t=25	kg	2.8
無収縮モルタル			m3	0.02

位置図 S=1:200



施工フロー

- 準備工
- 足場組立
- RC縁端拡幅工　先行施工
- 芯出し素地調整
- 仮支点補強材仮取付　鋼桁に仮取付けする。
- 鋼桁ボルト孔明　鋼桁材のボルト孔及びピン孔に沿って、鋼桁に孔明けをする。
- 仮支点補強材取付
- 高力ボルト本締め
- 仮受材固定架台設置
- ジャッキ設備設置
- 反力受替(ジャッキアップ)　ジャッキアップは、ゆっくり行う。ジャッキに反力が移行した時点で、圧力を停止する。
- 端横桁下フランジ切断　アンカーボルト取替の際に支障となる部分を切断する。
- 既設沓座モルタルはつり　ウォータージェット工法
- はつり部の清掃
- アンカーボルト・ナット取替・ピンチプレート取付
- 沓座モルタル打設
- 仕上げ
- 養生
- 反力受替(ジャッキダウン)　沓座モルタルの状態を確認しながらゆっくりとジャッキダウンする。
- ジャッキ設備撤去
- 仮受材固定架台解体撤去
- 高力ボルト締付解除
- 仮支点補強材撤去
- 鋼桁ボルト孔を塞ぐ　高力ボルトで鋼桁孔を塞ぐ
- 足場解体
- 後片付け

注)1.部材寸法は既往の資料及びH-BB-C設計資料を基に作成しているため、
現場実測のうえ、製作・施工すること。
2.主構造補修工は支承補修後に施工すること。

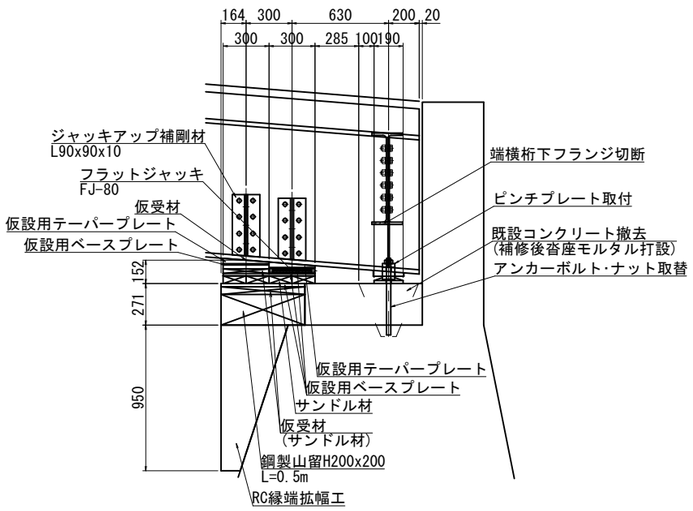
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 9/25	支承補修図(1)	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長 / 係長	照査	設計	
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

日向橋　支承補修図(その2)

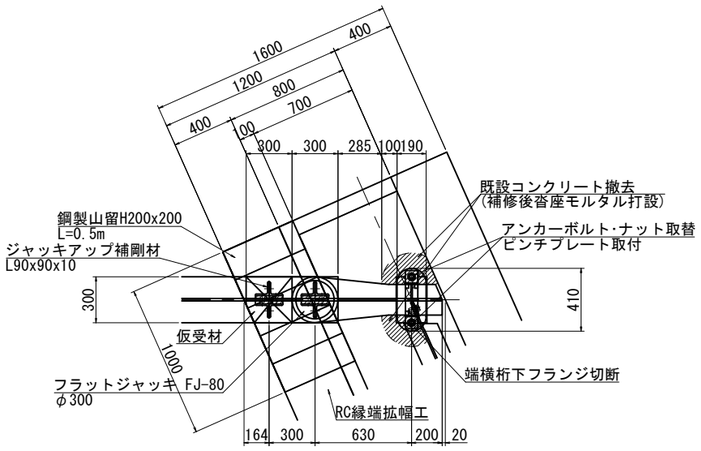
(A2橋台 G1桁)

仮受材詳細図 S=1:20

側面図



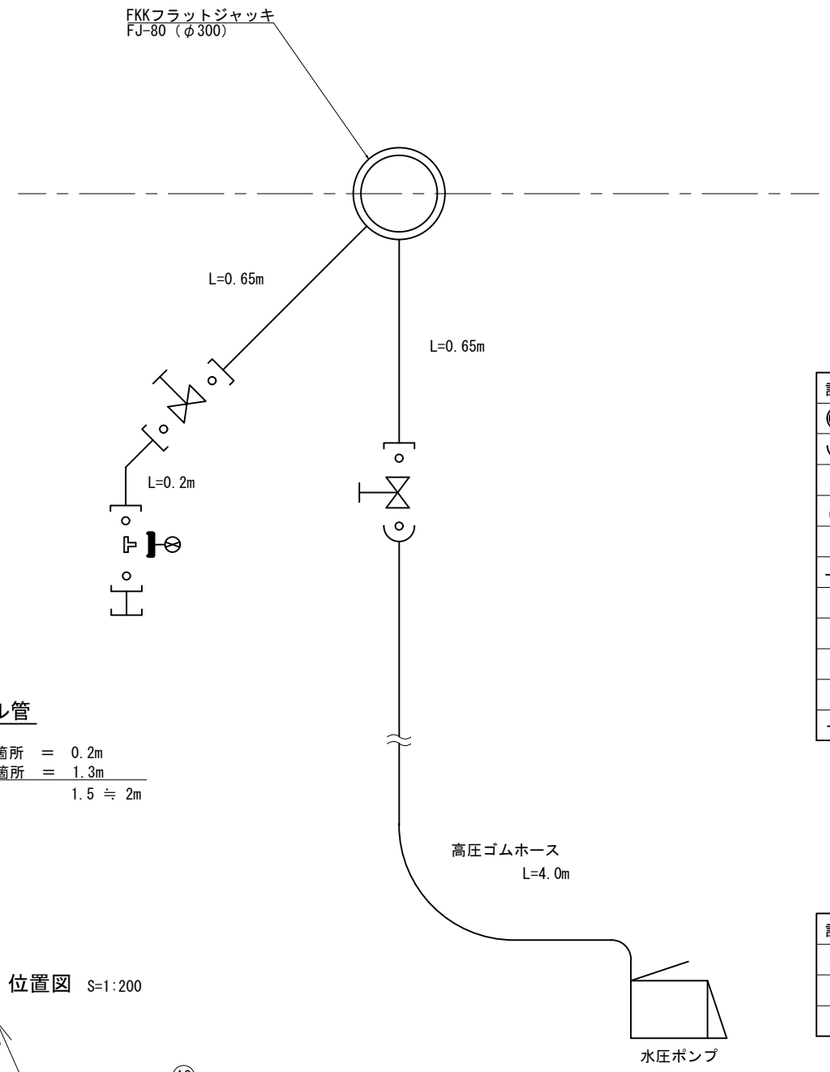
平面図



仮受材数量表

名称	種別	単位	数量	摘要
テーパープレート	PL 300x36x300	枚	2	50.9kg
ベースプレート	PL 300x 9x300	枚	2	12.7kg
ベースプレート	PL 300x25x300	枚	1	17.7kg
ベースプレート	PL 300x16x600	枚	1	22.6kg
ベースプレート	PL 500x22x1000	枚	1	86.4kg
鋼製山留	H-200x200x500	個	5	137.5kg
フラットジャッキ	FJ-80(φ300)	組	1	油圧ポンプ・ホースその他
サンドル材	PL 300x50x150	枚	4	70.7kg

フラットジャッキFJ-80（φ300）　単独配管図 S=1:10



スケジュール管

0.2 m × 1箇所 ＝ 0.2m
0.65m × 2箇所 ＝ 1.3m
1.5 ≒ 2m

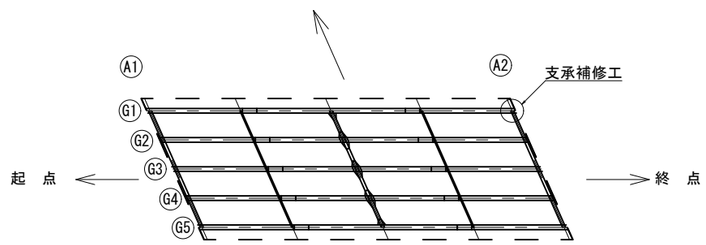
部品表

記号	品　名	数
	フラットジャッキ本体	1台
	ニップル異径	1個
	ストップバルブ	2個
	ブッシング	1個
	継手Kc	5個
	継手Ku(予備1ヶ含む)	
	ストッパー	1個
	チーズ	1個
	部品組立	11個所
	スケジュール管	2m

リース品

記号	品　名	数
	水圧ポンプ	1台
	高圧ゴムホース	1本
	液圧圧力計	1個

位置図 S=1:200



注)1.部材寸法は既往の資料及びH-BB-C設計資料を基に作成しているため、
現場実測のうえ、製作・施工すること。
2.主構造補修工は支承補修後に施工すること。

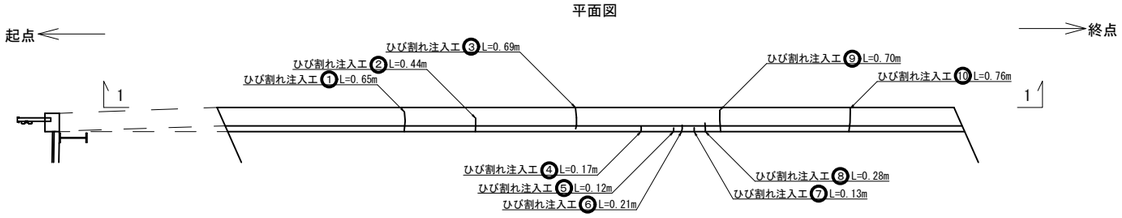
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 10/25	支承補修図(2)	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

日向橋　床版・地覆補修図

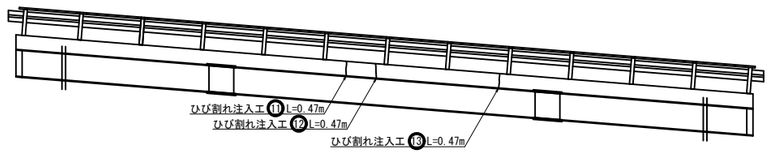
地覆補修図 S=1:100

下流側

平面図

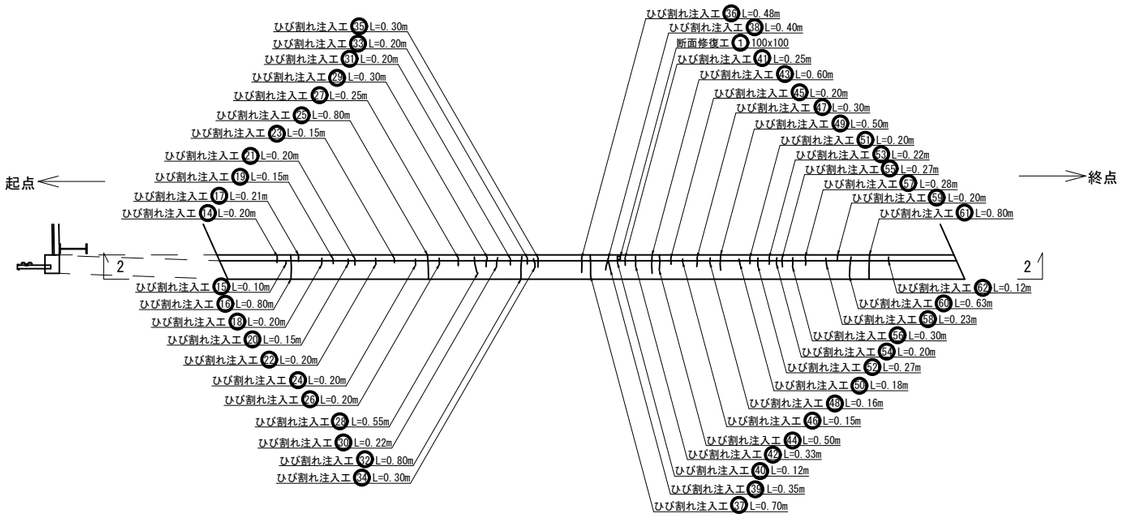


外側
(1-1)

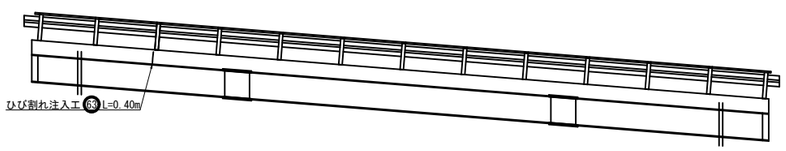


上流側

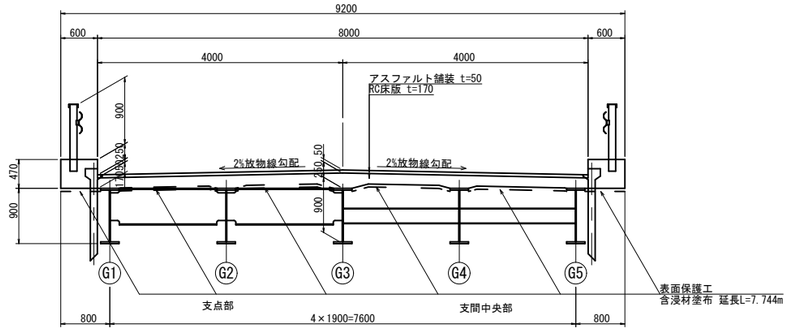
平面図



外側
(2-2)



上部工断面図 S=1：50

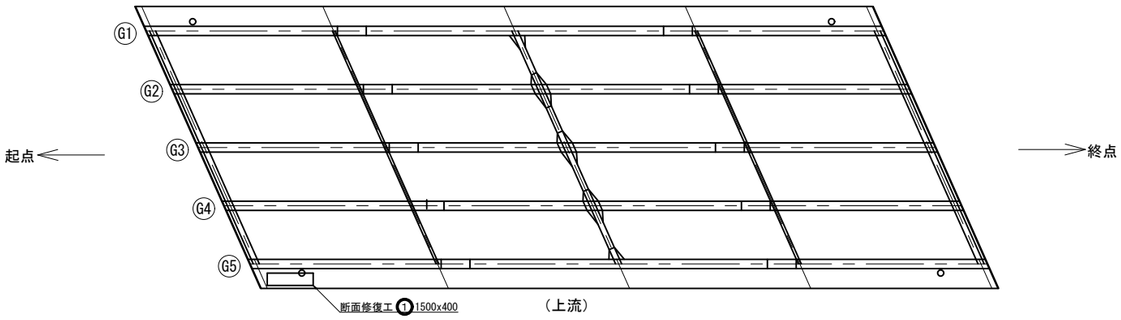


床版補修図 S=1:100

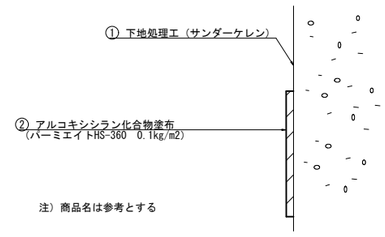
平面図

（橋下面）

（下流）

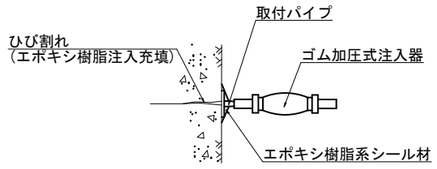


含浸材塗布工



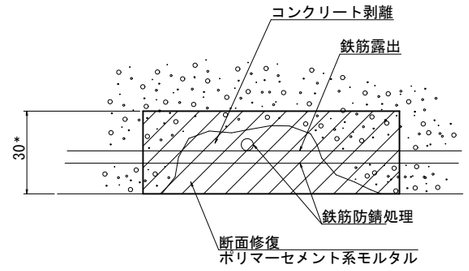
注）商品名は参考とする

ひび割れ注入工



断面修復工

（左官工法）



*断面修復の深さは、3cmとするが、現地状況により変更する。

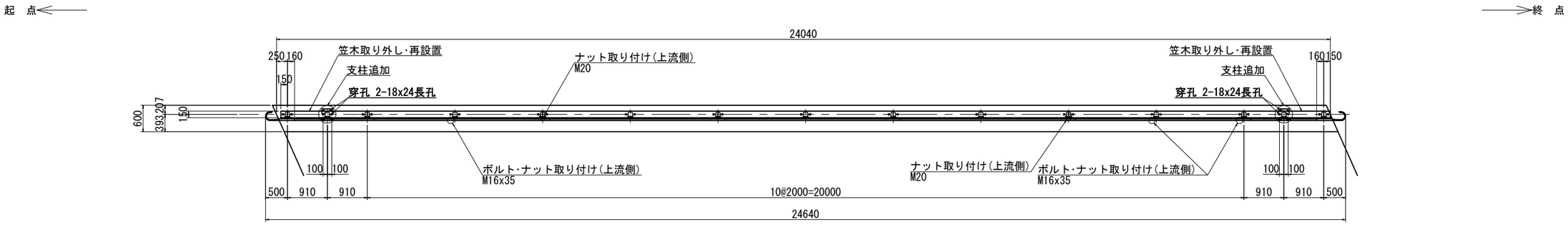
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	11/25	床版・地覆補修図		縮尺	図示
町道1号線					
箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

日向橋　防護柵補修図(その1)

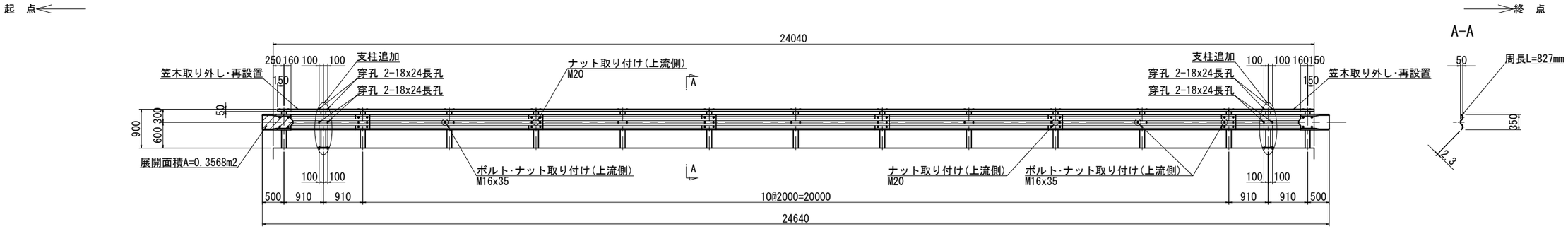
塗替塗装詳細図

下 流 側

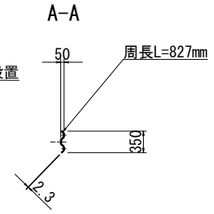
平 面 図　S=1：50



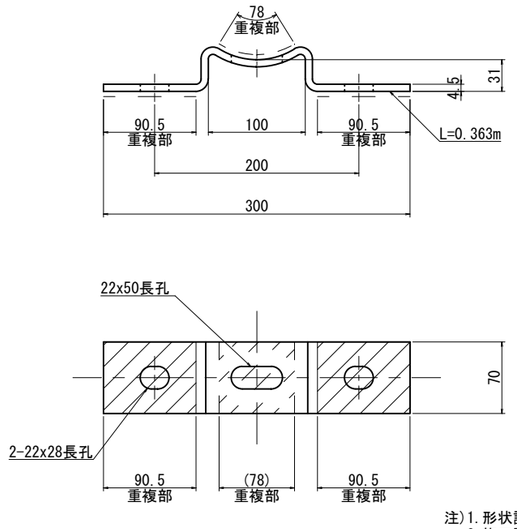
正 面 図　S=1：50



A-A

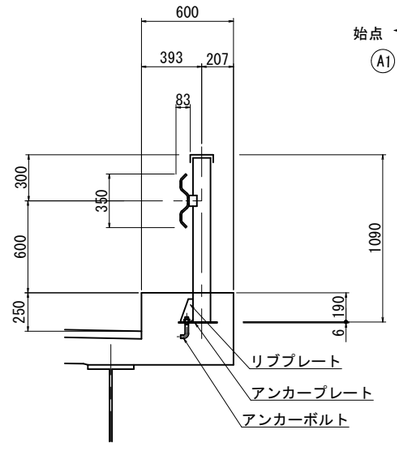


ブラケット　S=1:3



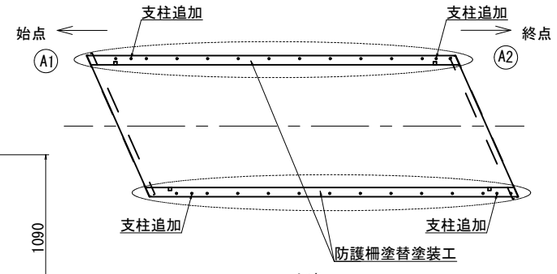
断面図　S=1:20

既設支柱



位 置 図　S=1：200

下流



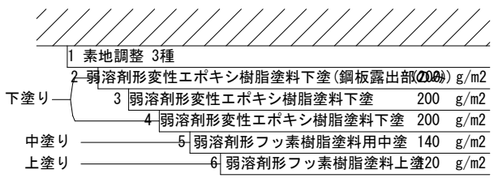
上流

施工手順

塗 装 工

素地調整 ⇩ 下塗工 ⇩ 中塗工 ⇩ 上塗工 ⇩ 完了

(RC-Ⅲ塗装系)



現場塗装塗り替え工　　1式当り

項　目		単位	数量
現場ケレン工	3種ケレン	m2	74.0
現場塗装塗り替え工	RC-Ⅲ	m2	74.0

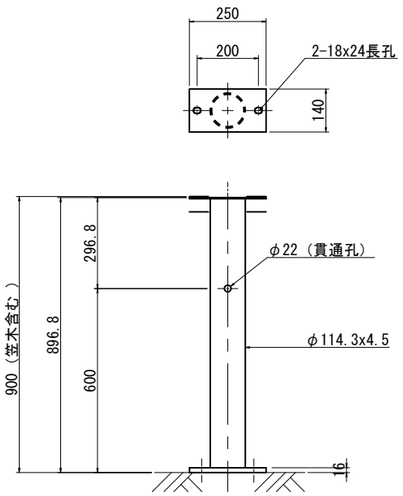
注)1. 形状設定は、既往資料と現地調査結果を元にモデル化したものである。
2. 施工関連諸寸法は、現地実測により決定すること。
3. 現地にて各部寸法を再度確認の上、施工すること。
4. 既設防護柵のナットに緩みが生じている場合は、塗装前に締め直すこと。
5. ( )内寸法は上流側を示す。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	12/25	防護柵補修図(1)		縮尺	図示
町道1号線					
箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕 輪 町 役 場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

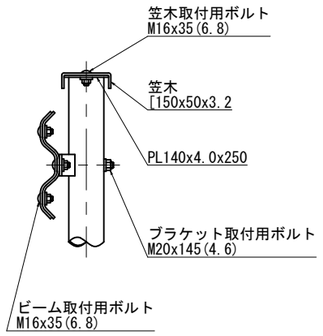
日向橋　防護柵補修図(その2)

支柱･ボルト・ナット取付工詳細図

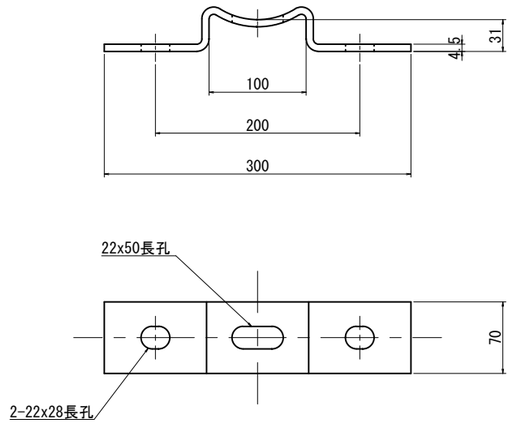
支柱加工図　S=1:10



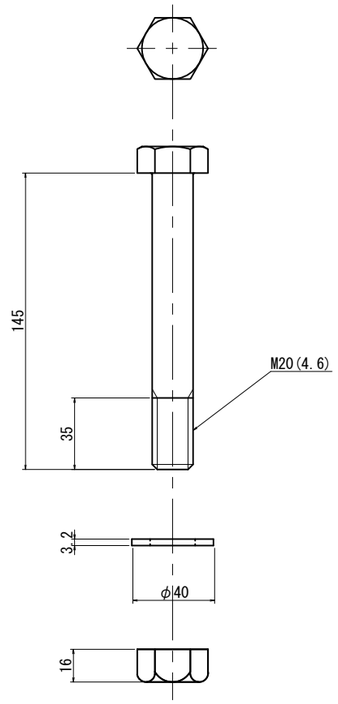
取付詳細図　S=1:10



ブラケット　S=1:3

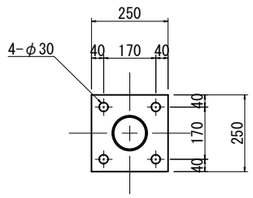


ブラケット取付用ボルト　S=1:1.5

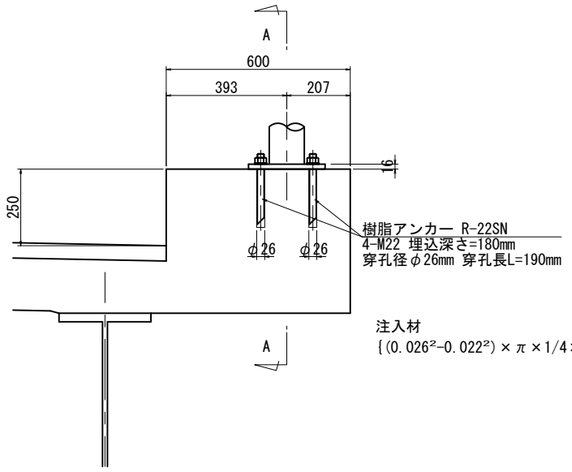


ベースプレート　S=1/10

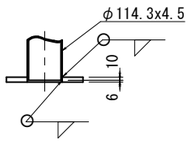
平面図



側面図

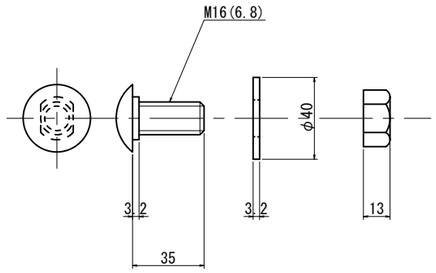


断面図
(A-A)



注入材
{(0.026²-0.022²)×π×1/4×0.19}×1,200×1.15=0.041ｋｇ/本

笠木・ビーム取付用ボルト　S=1:1.5



部品数量表　　1式当り

工　種	項　目		単位	数量
支柱取付工	支柱	φ114.3x4.5 L=900	本	4
	樹脂アンカー R-22SN	M22	本	16
	アンカーボルト･ナット	M22x230	本	16
	ブラケット	t=4.5mm	個	4
	ボルト・ナット	ブラケット取付用 M20x145	本	4
		笠木取付用 M16x35	本	8
		ビーム取付用 M16x35	本	8
ボルト･ナット取付工	ボルト・ナット	ビーム取付用 M16x35	本	3
ナット取付工	ナット	ブラケット取付用 M20用	個	2

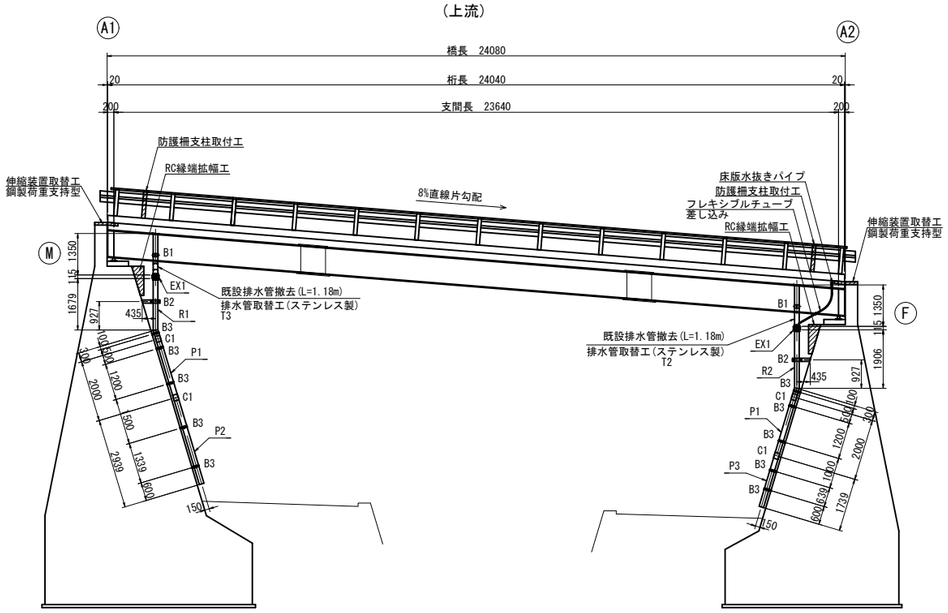
注)1.形状設定は、既往資料と現地調査結果を元にモデル化したものである。
2.施工関連諸寸法は、現地実測により決定すること。
3.現地にて各部寸法および必要に応じて既設鉄筋位置を再度確認の上、施工すること。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	13/25	防護柵補修図(2)	縮尺 図示
町道1号線			
筑輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
筑　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

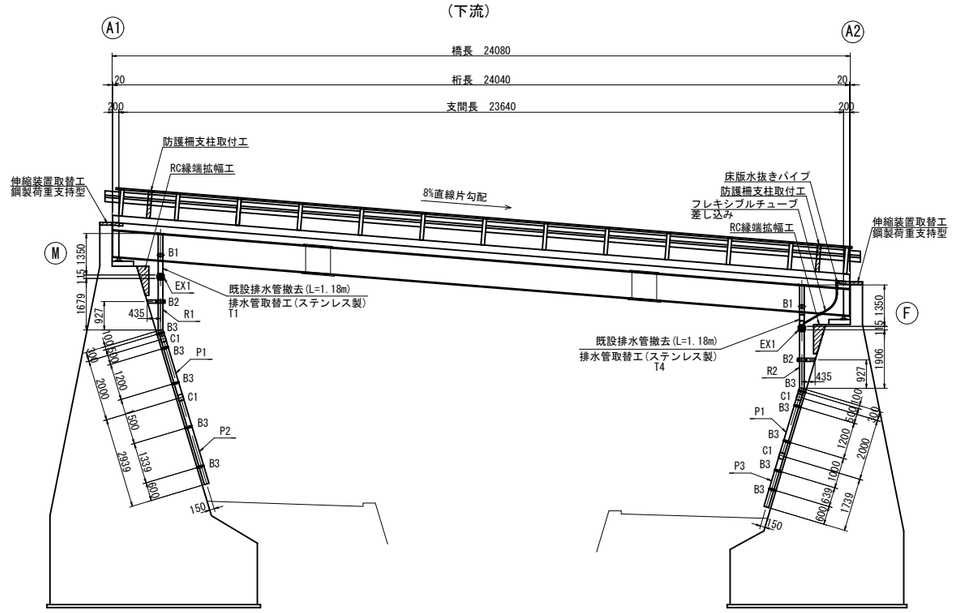
排水装置補修図(その1) S=1:100

側 面 図

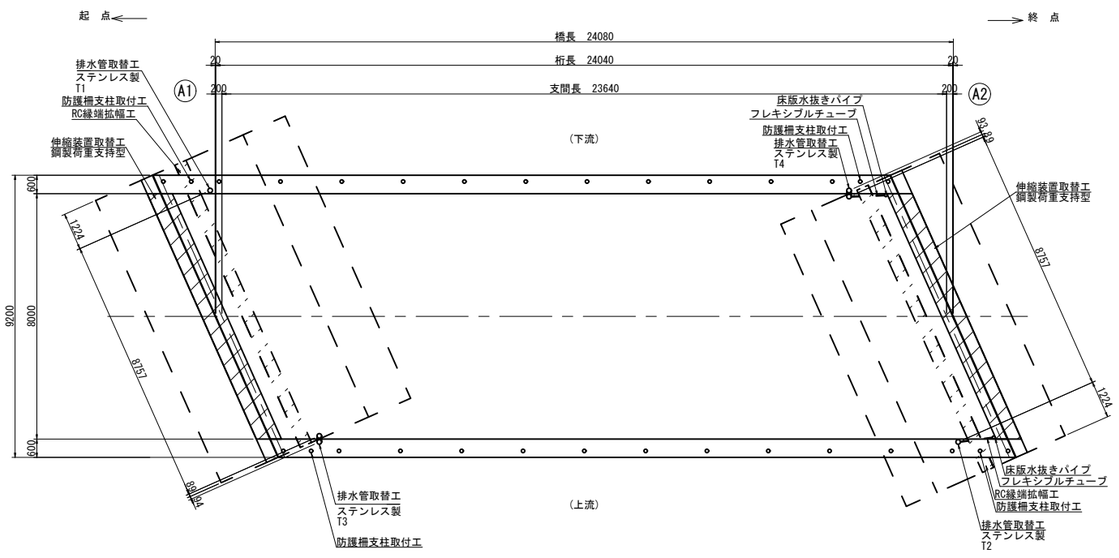
(上流)



(下流)

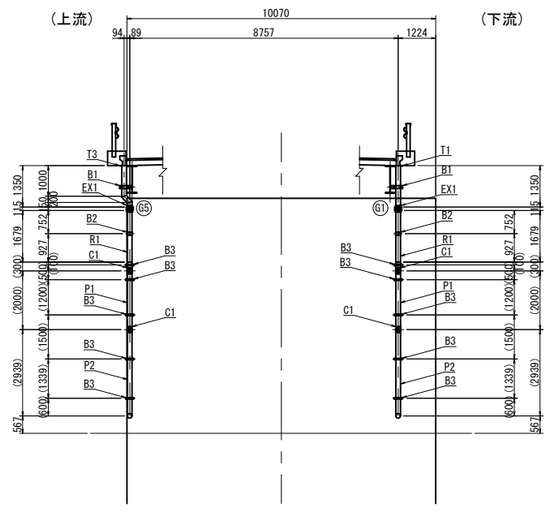


平 面 図

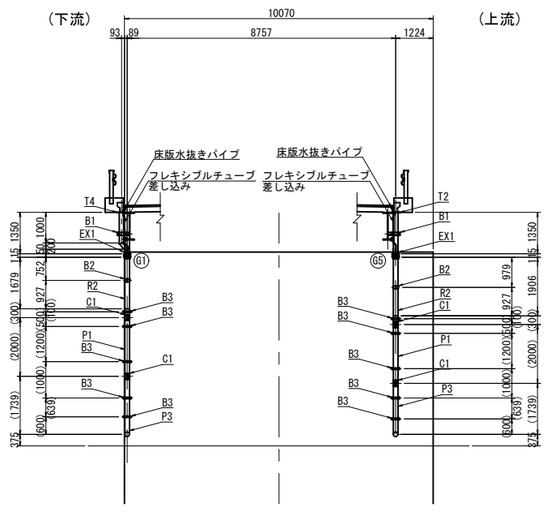


下部工正面図 S=1:100

A1橋台



A2橋台

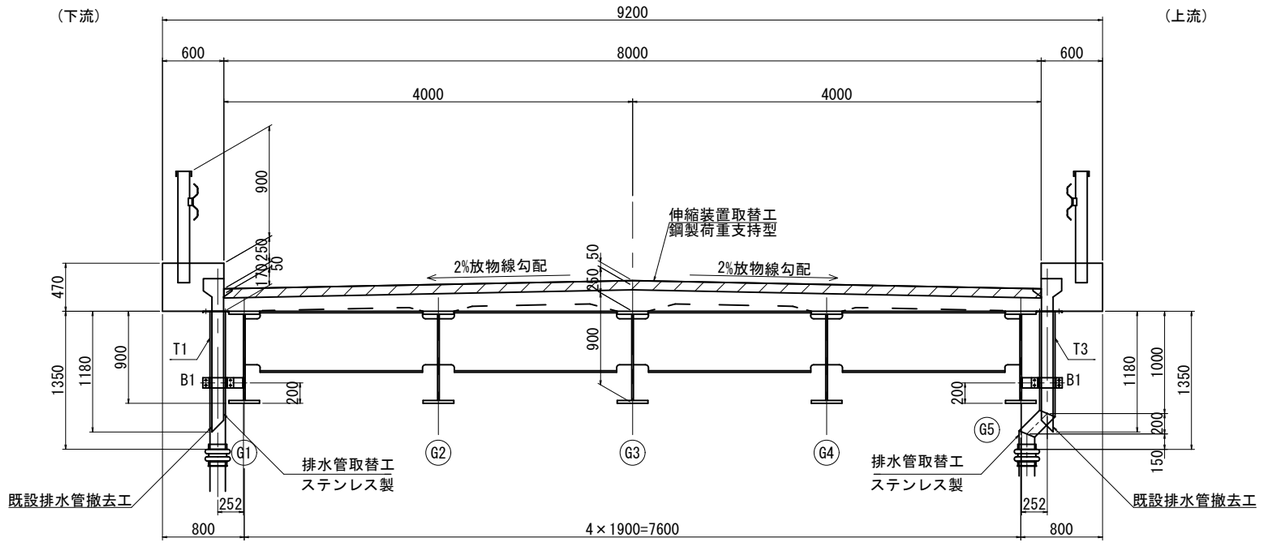


平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 14/25	排水装置補修図(1)	縮尺	図示
町道1号線 箕輪町 日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕 輪 町 役 場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

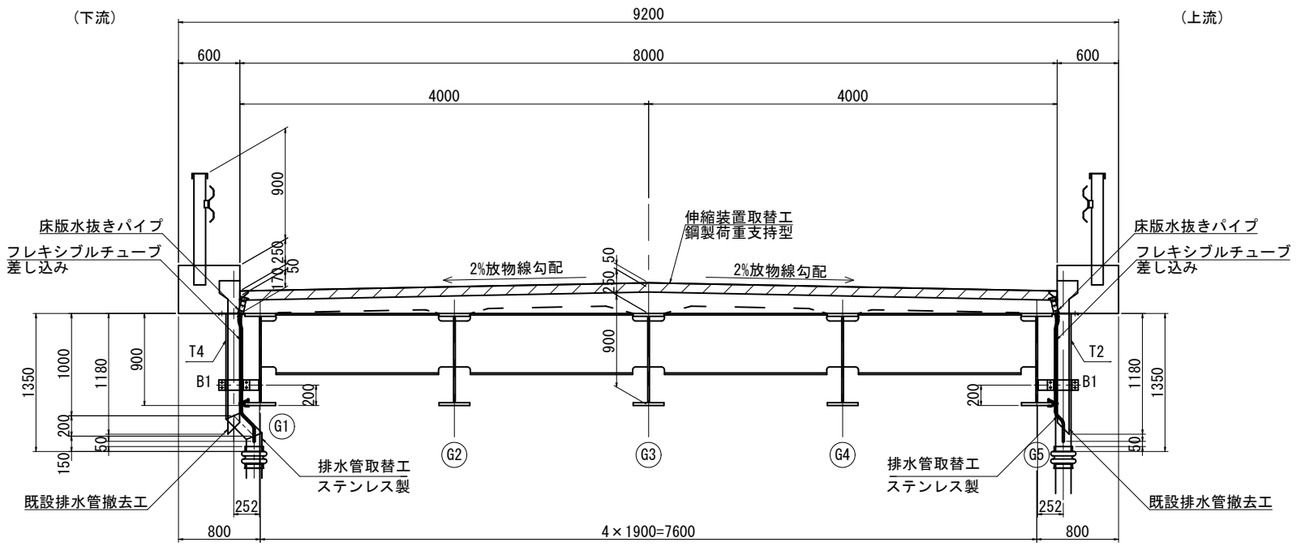
排水装置補修図(その2)　S=1:30

上部工断面図

A1橋台



A2橋台



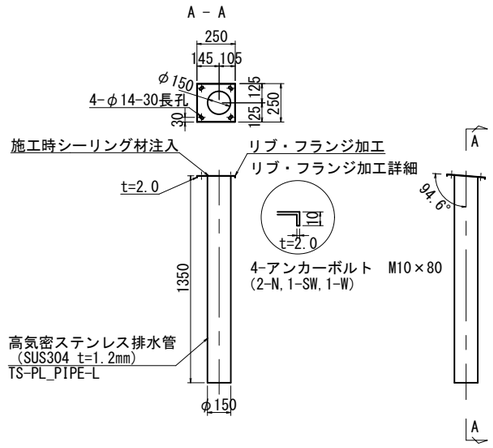
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	15/25	排水装置補修図(2)	縮尺 図示
町道1号線 箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

排水装置補修図(その3) S=1:20

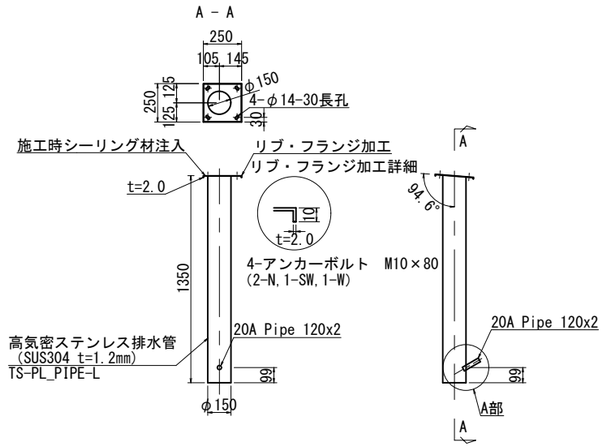
高気密ステンレス排水装置

TS-PL_PIPE-L

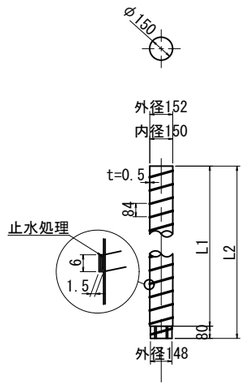
T1
製作数=1



T2
製作数=1



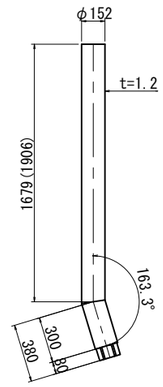
TS-PIPE
P1～P3
製作数=n



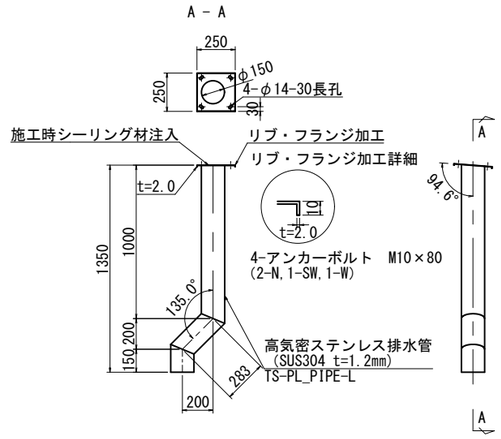
		L1	L2	n
	P1	2000	2080	4
※1	P2	2939	——	2
※1	P3	1739	——	2

※1 80mmプレス加工なし

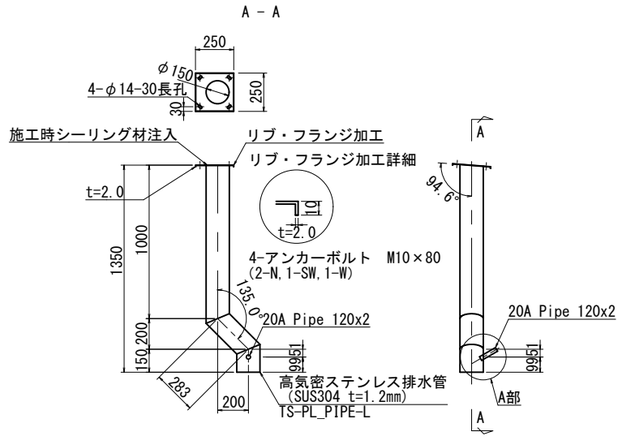
TS-PIPE
R1(R2)
製作数=2(2)



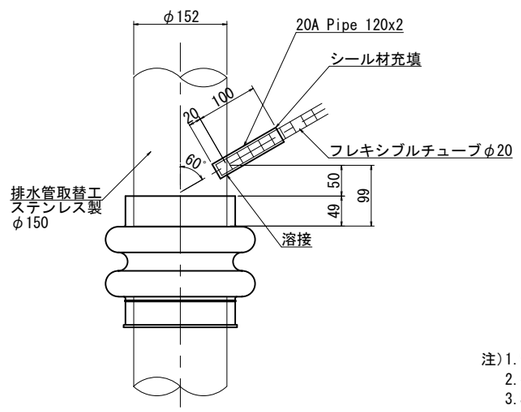
T3
製作数=1



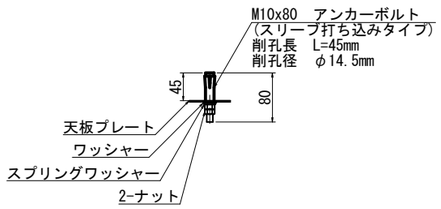
T4
製作数=1



フレキシブルチューブ接続部詳細図 S=1:5
(A部)



天板プレート取付アンカーボルト詳細図 S=1:5



注)1.特記なき材質はすべてSUS304とする。
2.排水管は、NETIS No.CB-980013-Vに準ずる。
3.SS400は全て溶融亜鉛メッキ
(JIS H 8641 2種 HDZ55) 仕上げを行う。
但し、ボルト類はHDZ35とする。
4.t=2.0mm以下のSUS304材の加工品については、
溶接部内外面は耐食性の低下を防止する
措置を講じる。

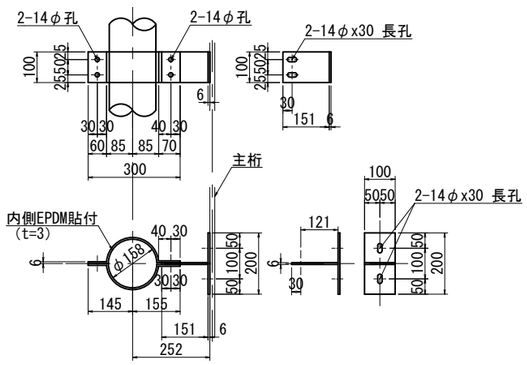
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	16/25	排水装置補修図(3)		縮尺	図示
町道1号線					
箕輪町 日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕 輪 町 役 場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

排水装置補修図(その4)　S=1:10

高気密ステンレス排水装置

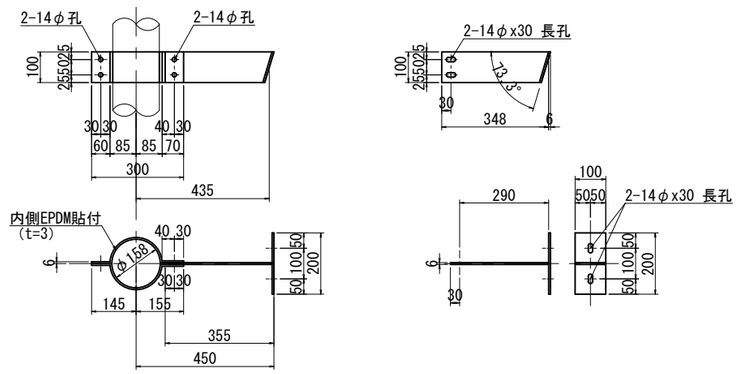
取付金具詳細図

B1
製作数=4
(SS400)



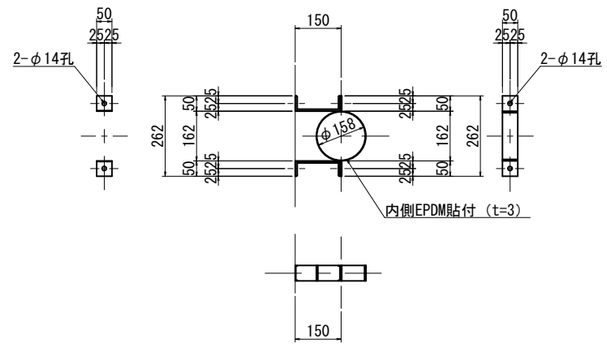
2-PL 100x6x378 (SS400)
1-PL 100x6x151 (SS400)
1-PL 100x6x200 (SS400)
6-BN M12x45(2-W付)(SS400)
2-EPDM 100x3x230

B2
製作数=4
(SS400)



2-PL 100x6x378 (SS400)
1-PL 100x6x348 (SS400)
1-PL 100x6x200 (SS400)
4-BN M12x45(2-W付)(SS400)
2-コンクリートアンカー　M12x100
2-EPDM 100x3x230

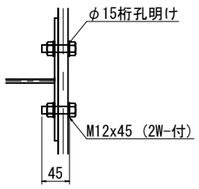
B3
製作数=20
(SUS304)



2-PL 50x2x240 (ﾘﾌﾞ､ﾌﾗﾝｼﾞ複合加工)
2-PL 50x2x351
2-B.N　M12x35(2-W付)
2-コンクリートアンカー　M12x100
2-EPDM　50x3x230

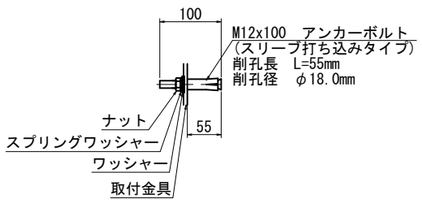
取付金具設置詳細図　S=1:5

(B1)



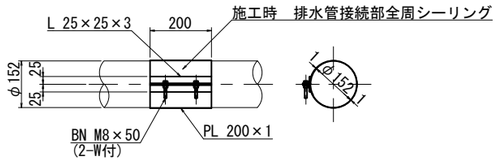
取付金具取付アンカーボルト詳細図　S=1:5

(B2･B3)



接続バンド詳細図　S=1:10

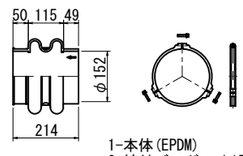
C1
製作数=8



2 - L 25 x 25 x 3 x 200
1 - PL 200 x 1 x 540
2 - BN M8 x 50　(2-W付)

伸縮管詳細図　S=1:10

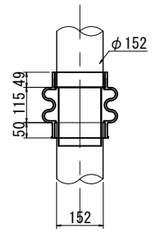
EX1
製作数=4



1-本体(EPDM)
2-締付バンド　φ150用(AC)
6-BN M6x30 (1-W付)

性　能　表　示	
偏心量	偏心量(地震時)
60	120

伸縮管接合部詳細図

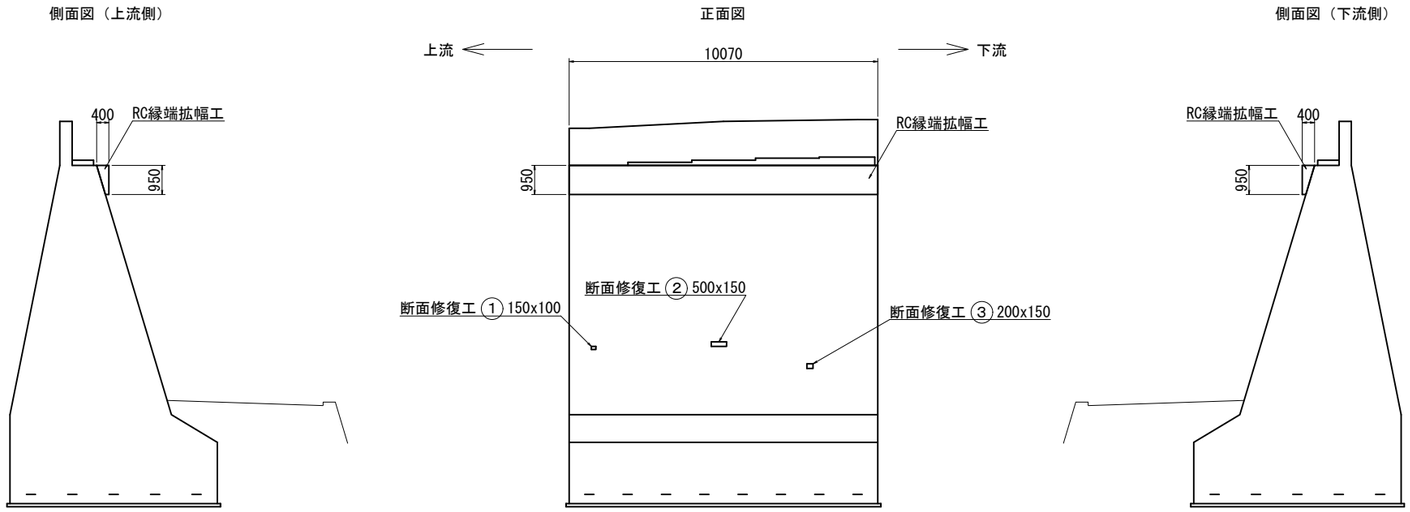


注)1.特記なき材質はすべてSUS304とする。
2.排水管は、NETIS No.CB-980013-Vに準ずる。
3.SS400は全て溶融亜鉛メッキ
(JIS H 8641 2種　HDZ55) 仕上げを行う。
但し、ボルト類はHDZ35とする。

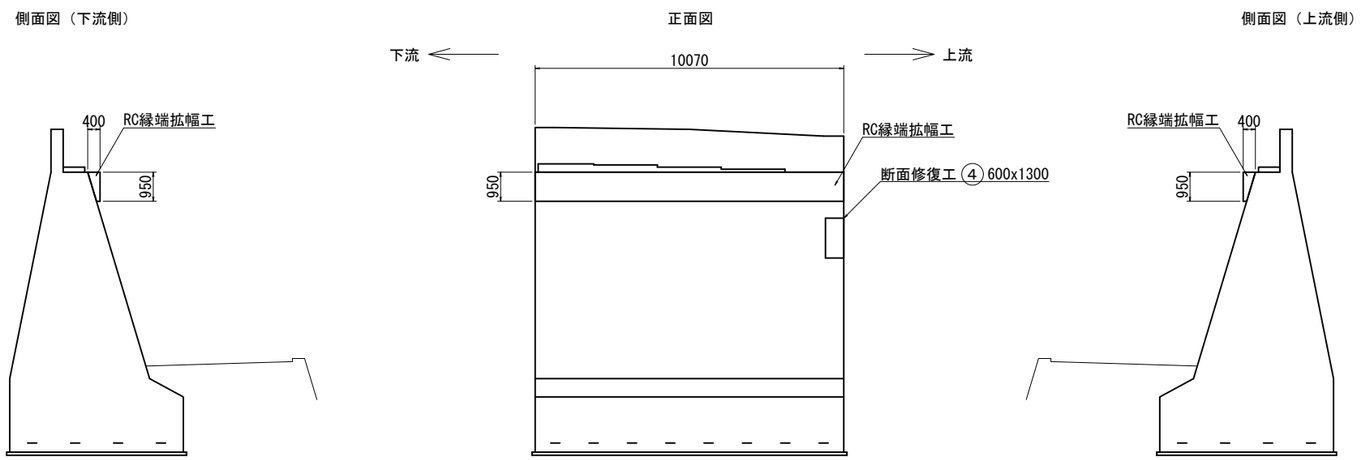
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	17/25	排水装置補修図(4)	縮尺　図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

日向橋　下部工補修図 S=1:100

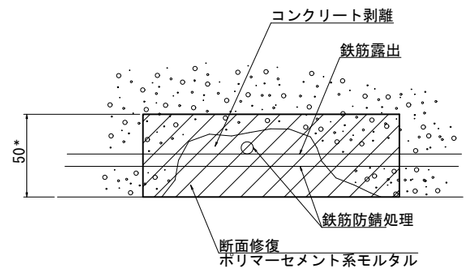
A1橋台



A2橋台



断面修復工
（左官工法）



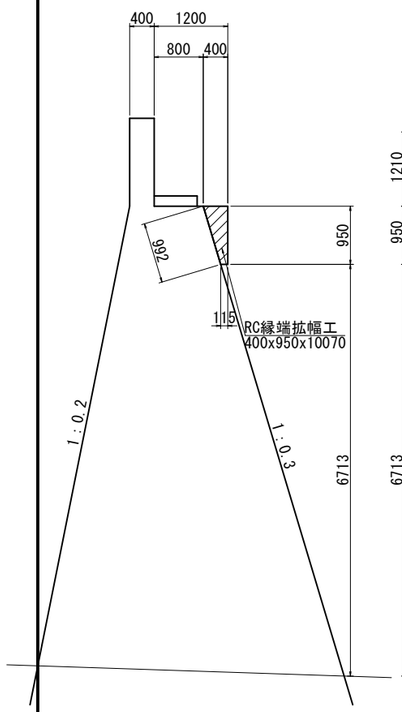
*断面修復の深さは、5cmとするが、現地状況により変更する。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 18/25	下部工補修図	縮尺	図示
町道1号線 箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

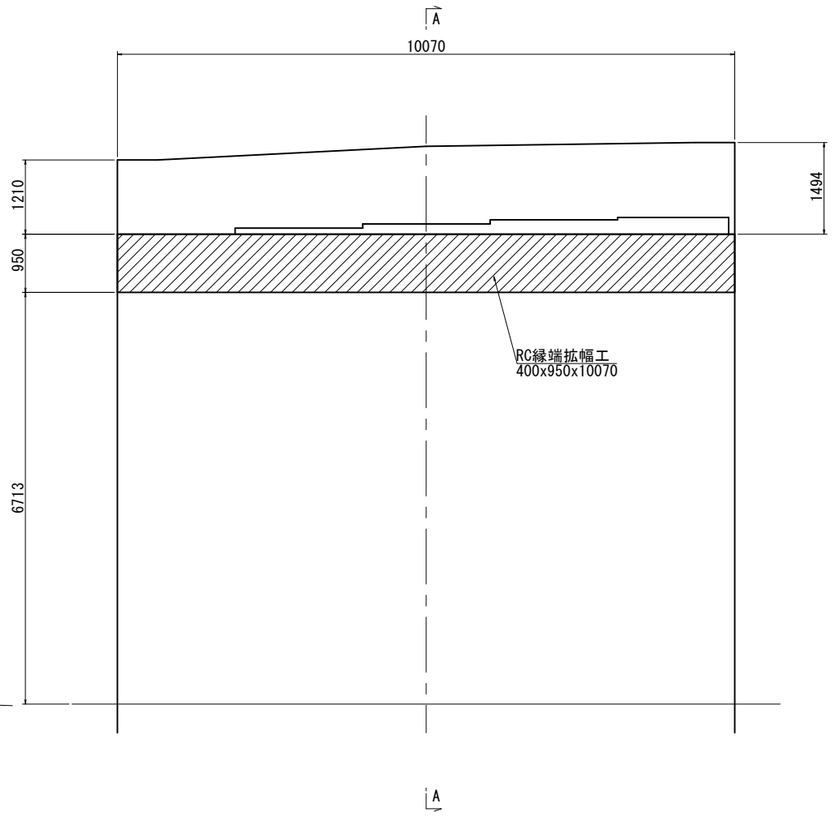
日向橋　橋座縁端拡幅計画図

(A1橋台橋座縁端拡幅)

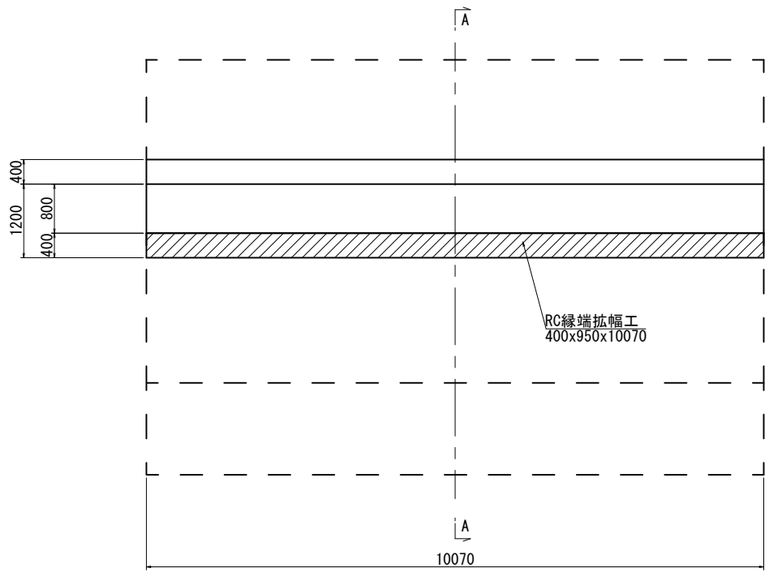
断　面　図 S=1:50
(A － A)



正　面　図 S=1:50

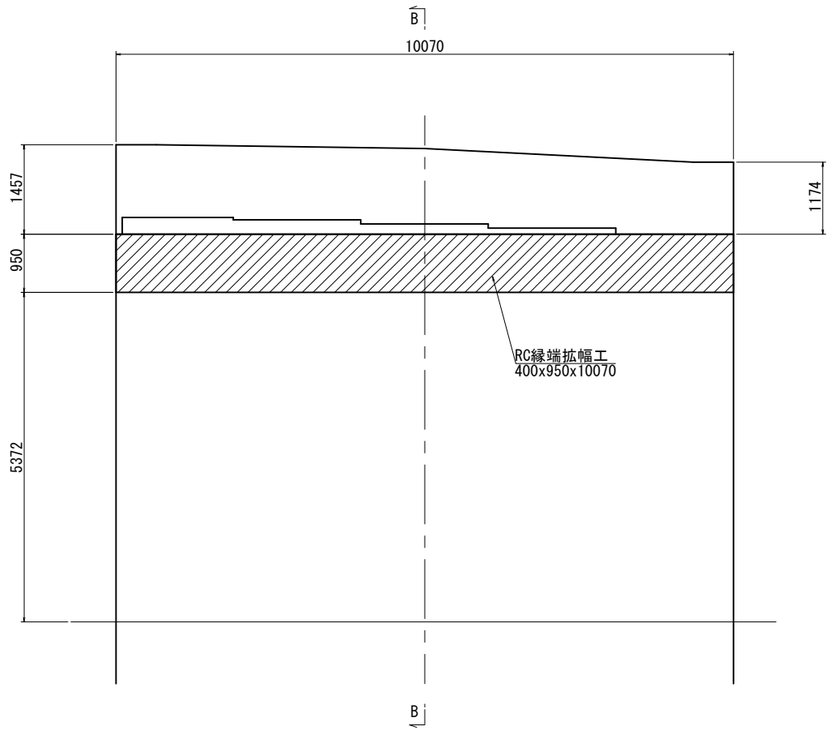


平　面　図 S=1:50

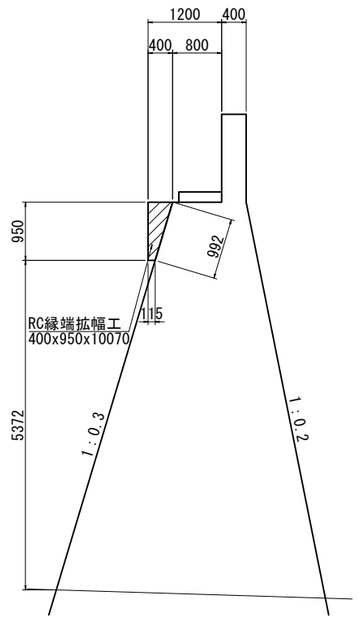


(A2橋台橋座縁端拡幅)

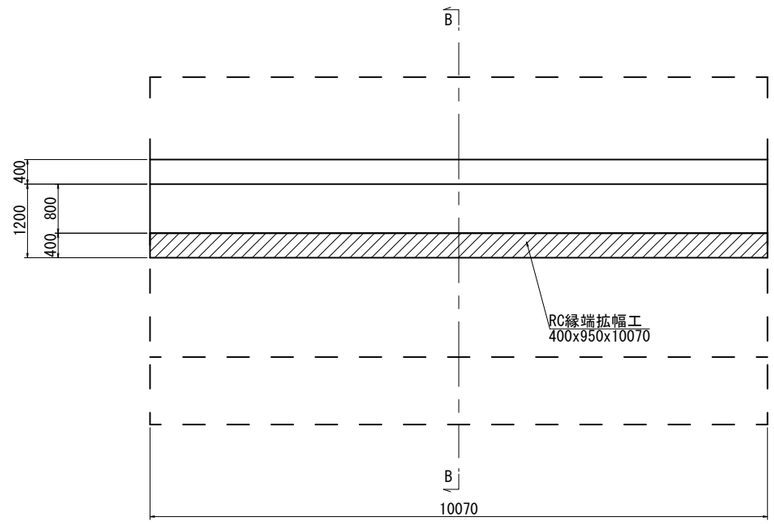
正　面　図 S=1:50



断　面　図 S=1:50
(B － B)



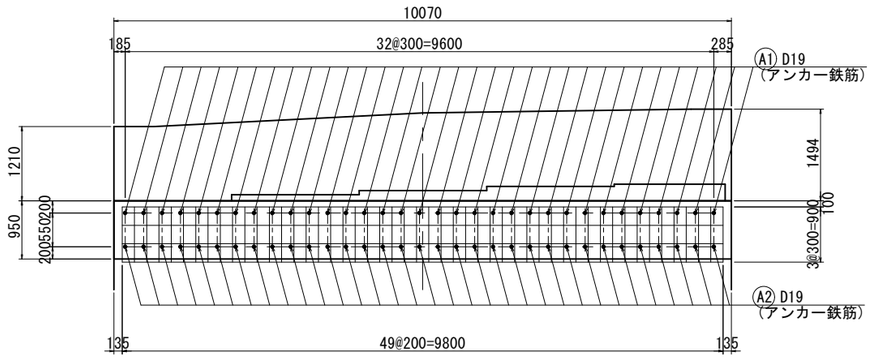
平　面　図 S=1:50



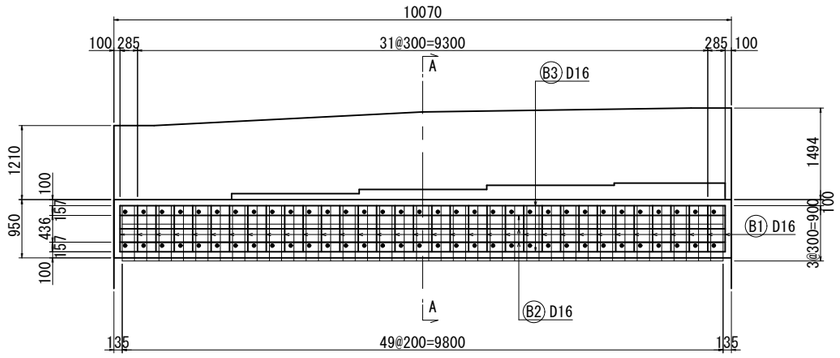
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	19／25	橋座縁端拡幅計画図	縮尺 図示
町道1号線 筑輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
筑　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

日向橋　A1橋台橋座縁端拡幅配筋図

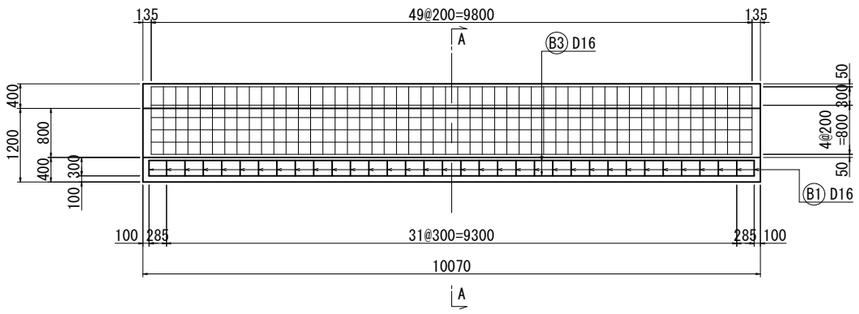
アンカー配置図 S=1:50



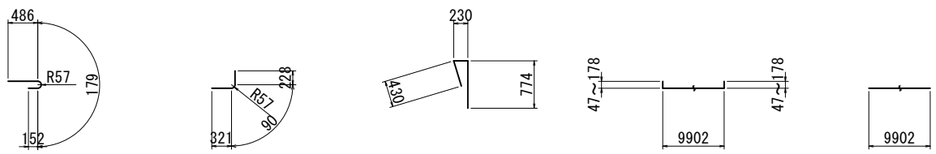
正　面　図 S=1:50



平　面　図 S=1:50

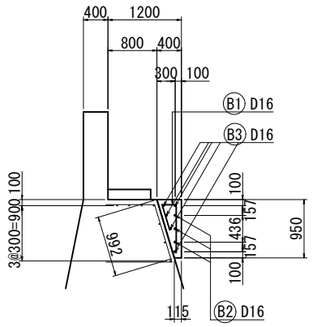


鉄筋加工図 S=1:50

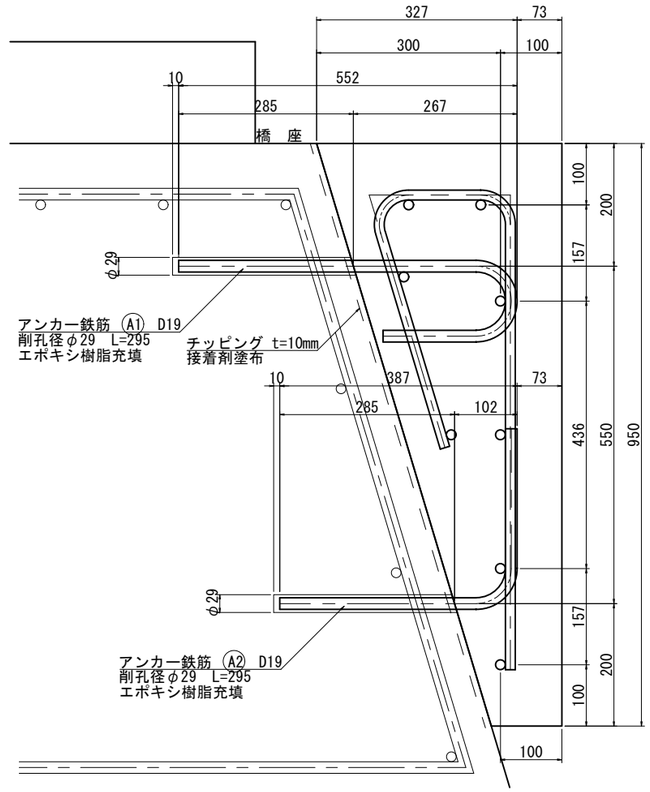


A1 33-D19x820　　A2 33-D19x640　　B1 34-D16x1440　　B2 3-D16x10130(平均長)　　B3 5-D16x9910

断　面　図 S=1:50
(A－A)



アンカー詳細図 S=1:5



注入材1.0本当り {(0.029²-0.019²)×π×1/4×0.295}×1,200×1.15= 0.153ｋｇ/本

橋座縁端拡幅鉄筋質量

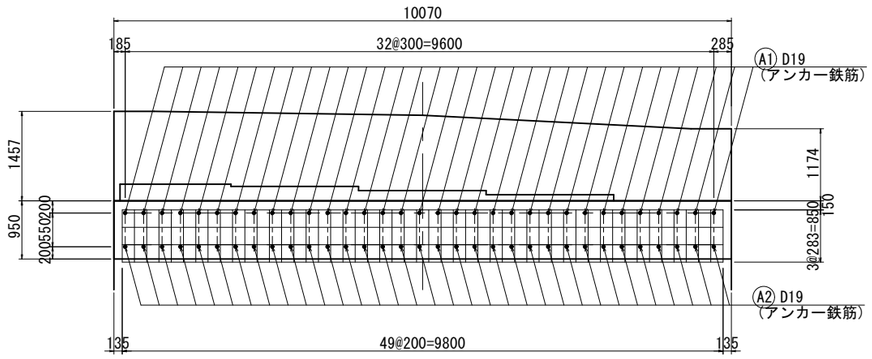
記　号	径	長さ (mm)	本　数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg)	質　量 (kg)	摘　要
A1	D19	820	33	2.25	1.85	61	
A2	D19	640	33	2.25	1.44	48	
B1	D16	1440	34	1.56	2.25	77	
B2	D16	10130	3	1.56	15.80	48	(平均長)
B3	D16	9910	5	1.56	15.46	78	
					D19	109	アンカー鉄筋
					D16	203	
					合計	312	kg

注1)縁端拡幅コンクリートの強度は、σck=24N/mm2とする。
2)鉄筋の材質は、SD345 とする。
3)鉄筋の加工は現地再調査のうえ決定すること。
4)施工に当たっては鉄筋探査を行い、極力既設鉄筋の切断は避けるようにする。
5)鉄筋位置変更等の場合は、必要に応じて応力照査を行うこと。
6)縁端拡幅部の既設橋台前面は、チッピングのうえエポキシ樹脂系の接着剤を塗布する。
7)――は既設鉄筋を示す(推定)。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 20/25	A1橋台 橋座 縁端拡幅配筋図	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町 日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

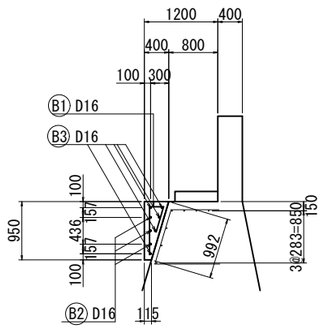
日向橋　A2橋台橋座縁端拡幅配筋図

アンカー配置図 S=1:50

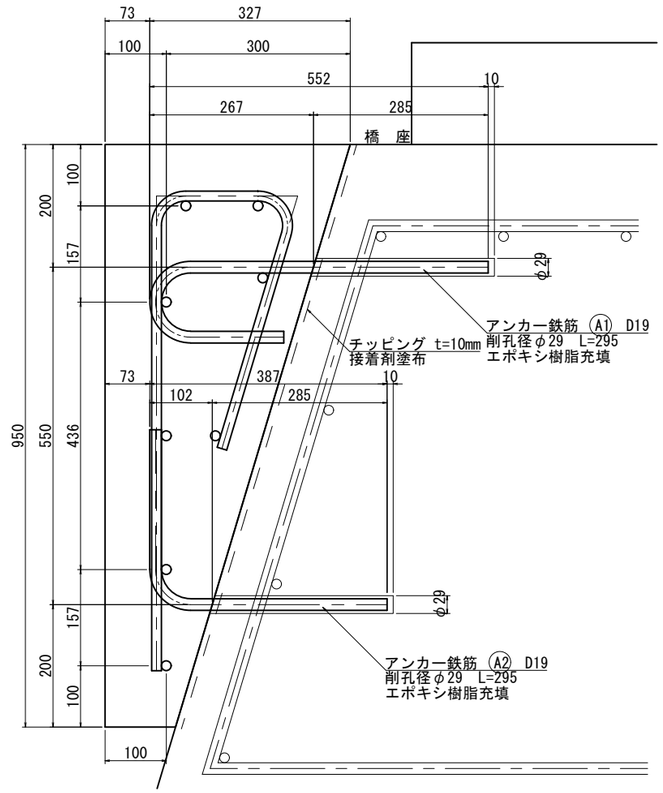


正　面　図 S=1:50

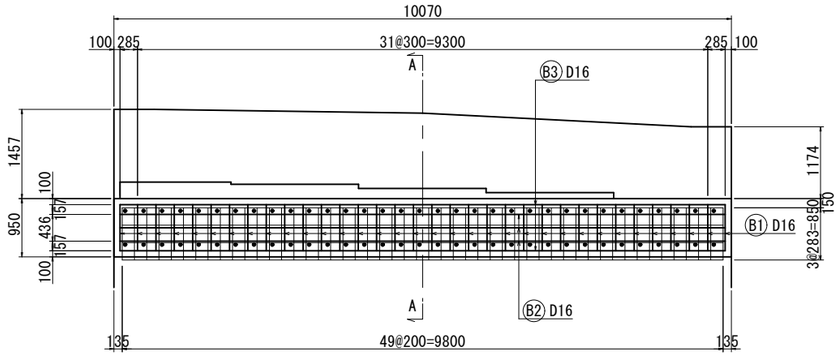
断　面　図 S=1:50
(A － A)



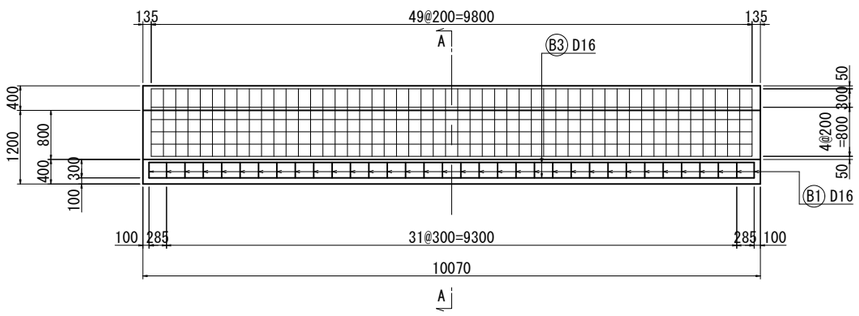
アンカー詳細図 S=1:5

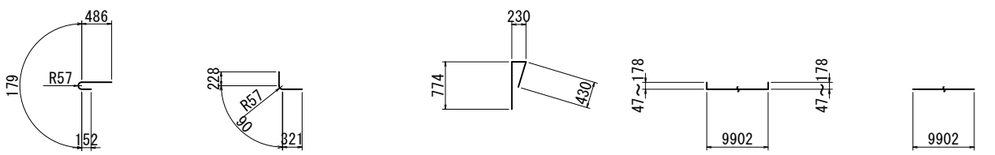


平　面　図 S=1:50



鉄筋加工図 S=1:50





A1 33-D19x820　　A2 33-D19x640　　B1 34-D16x1440　　B2 3-D16x10130(平均長)　　B3 5-D16x9910

橋座縁端拡幅鉄筋質量

記　号	径	長さ (mm)	本　数	単位質量 (kg/m)	1本当たり質量 (kg)	質　量 (kg)	摘　要
A1	D19	820	33	2.25	1.85	61	
A2	D19	640	33	2.25	1.44	48	
B1	D16	1440	34	1.56	2.25	77	
B2	D16	10130	3	1.56	15.80	48	(平均長)
B3	D16	9910	5	1.56	15.46	78	
					D19	109	アンカー鉄筋
					D16	203	
					合計	312	kg

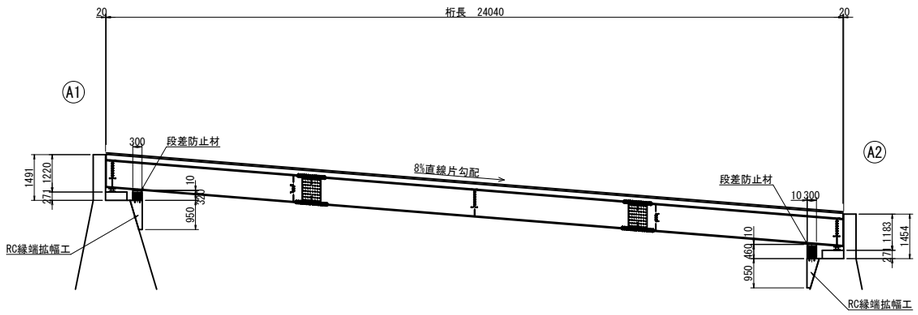
注1)縁端拡幅コンクリートの強度は、σck=24N/mm2とする。
2)鉄筋の材質は、SD345 とする。
3)鉄筋の加工は現地再調査のうえ決定すること。
4)施工に当たっては鉄筋探査を行い、極力既設鉄筋の切断は避けるようにする。
5)鉄筋位置変更等の場合は、必要に応じて応力照査を行うこと。
6)縁端拡幅部の既設橋台前面は、チッピングのうえエポキシ樹脂系の接着剤を塗布する。
7)――は既設鉄筋を示す(推定)。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号 21/25	A2橋台 橋座 縁端拡幅配筋図	縮尺	図示
町道1号線			
箕輪町 日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

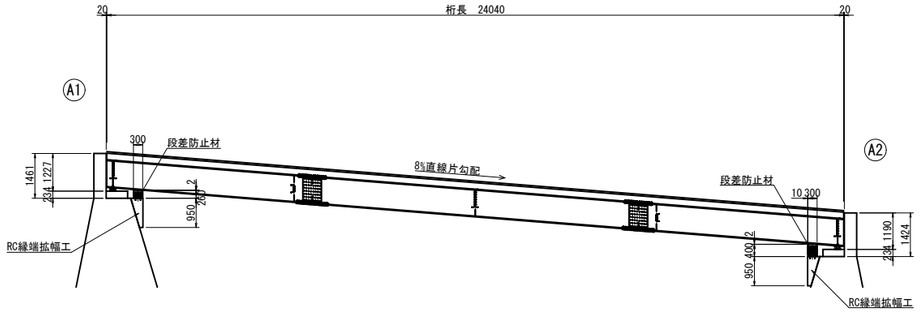
日向橋　落橋防止システム工

段差防止構造図　S=1:100

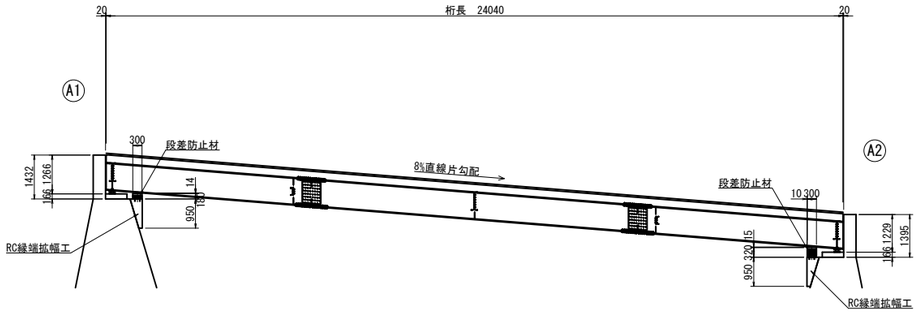
G1桁



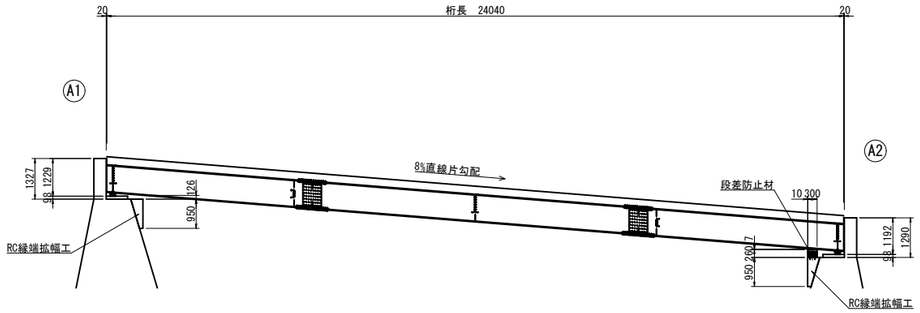
G2桁



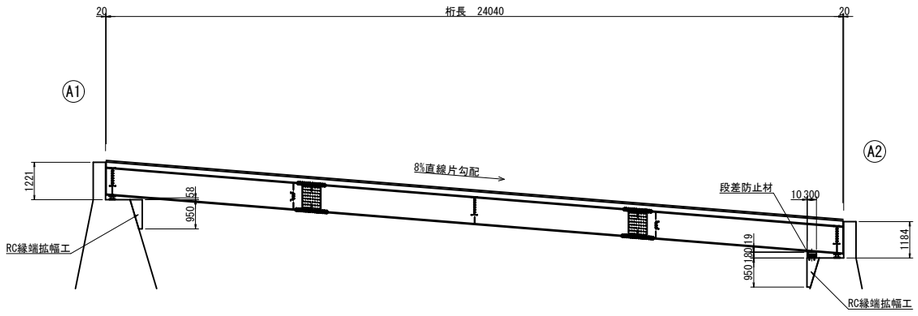
G3桁



G4桁



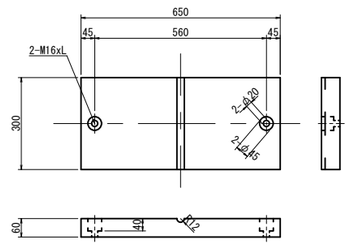
G5桁



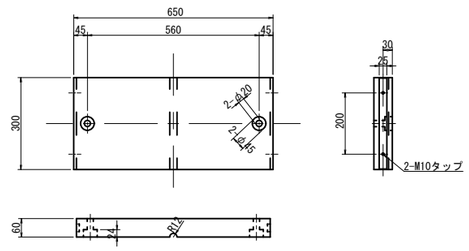
段差防止材寸法図　S=1:10

(DB-650)

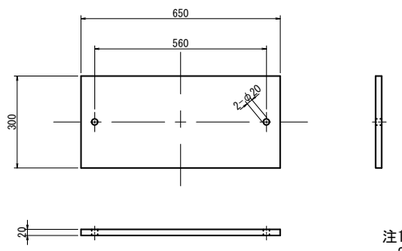
緩衝材(上部用)



緩衝材(下部用)



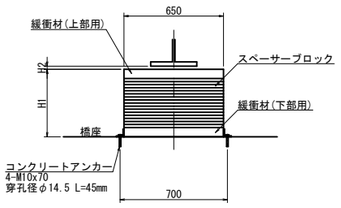
スペーサーブロック
(ポリエチレン製)



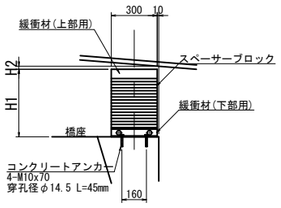
緩衝材(上下セット)
スペーサーブロック
固定金具 2-L50x50x6x300(SUS304)
ボルト 2-M16xL(SUS304)
ボルト 4-M10x18(SUS304)
コンクリートアンカー 4-M10x70(SUS304)

※スペーサーブロック枚数、ボルト長さは寸法表参照
(L=56+20xN N:スペーサー枚数)
なお製品ボルトは、5mm単位で切上げたものを使用する

正面図　S=1:20



側面図　S=1:20



寸法表

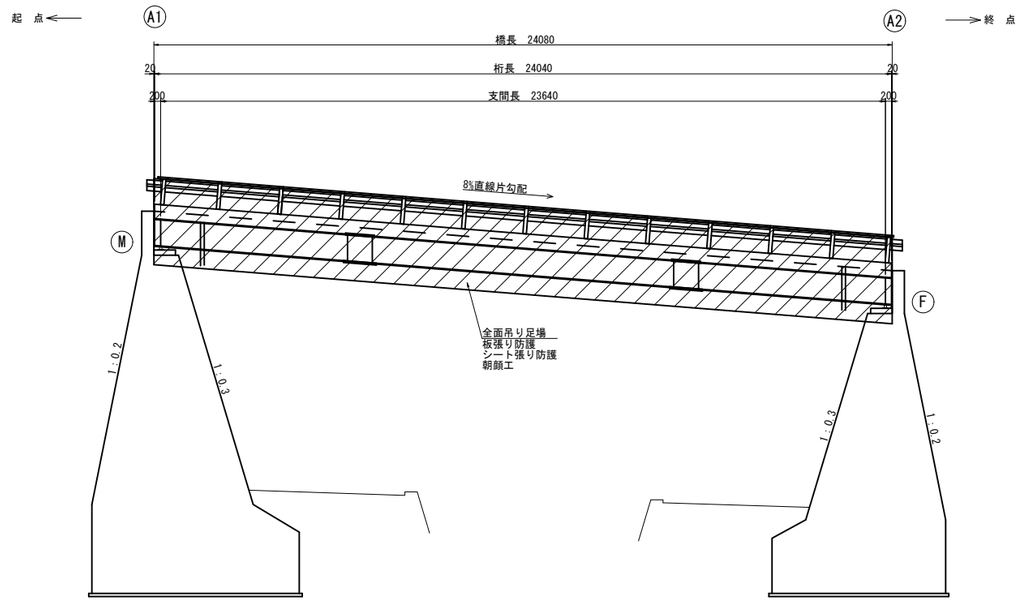
		H1	H2	N	L
A1橋台	G1桁	320	10	10	256
	G2桁	260	2	7	196
	G3桁	180	14	3	116
	G4桁	−	126	−	−
	G5桁	−	58	−	−
A2橋台	G1桁	460	10	17	396
	G2桁	400	2	14	336
	G3桁	320	15	10	256
	G4桁	260	7	7	196
	G5桁	180	19	3	116

注1)施工関連諸寸法は、現地実測により決定すること。
2)現地にて各部寸法を再度確認の上、施工すること。

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事			
番号	22／25	段差防止構造図	縮尺 図示
町道1号線			
箕輪町　日向橋			
課長	係長	照査	設計
箕　輪　町　役　場			
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正
		照査技術者	牧田一男
測量会社			
調査会社			

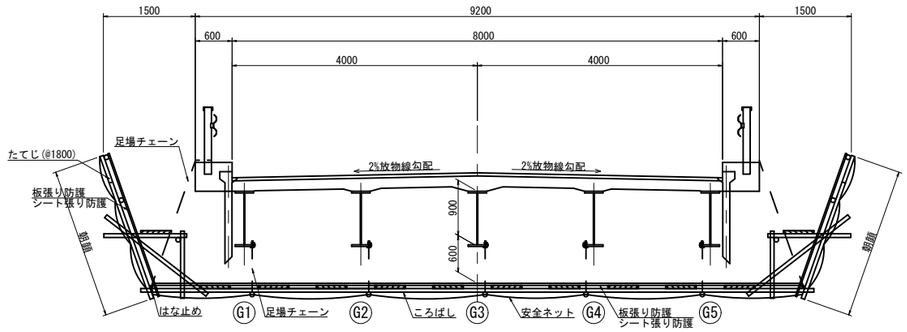
日向橋　施工要領図(その1)

側　面　図 S=1：100

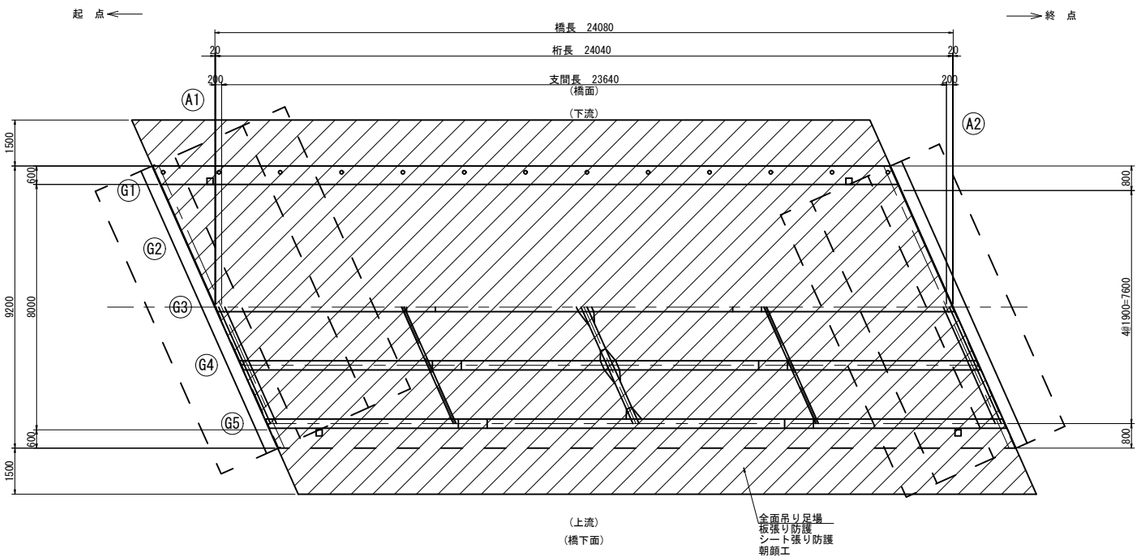


上部工断面図 S=1：50

床版･主構造･支承･排水管･地覆･防護柵補修用足場



平　面　図 S=1：100



施工フロー

ステップ① 仮設材施工

・全面吊り足場設置

ステップ② 橋面工施工時

・舗装撤去
・伸縮装置取替
・防護柵補修
・橋面防水・舗装敷設

ステップ② 橋梁下面施工時

・床版･主構造･支承補修

ステップ③ 仮設材施工

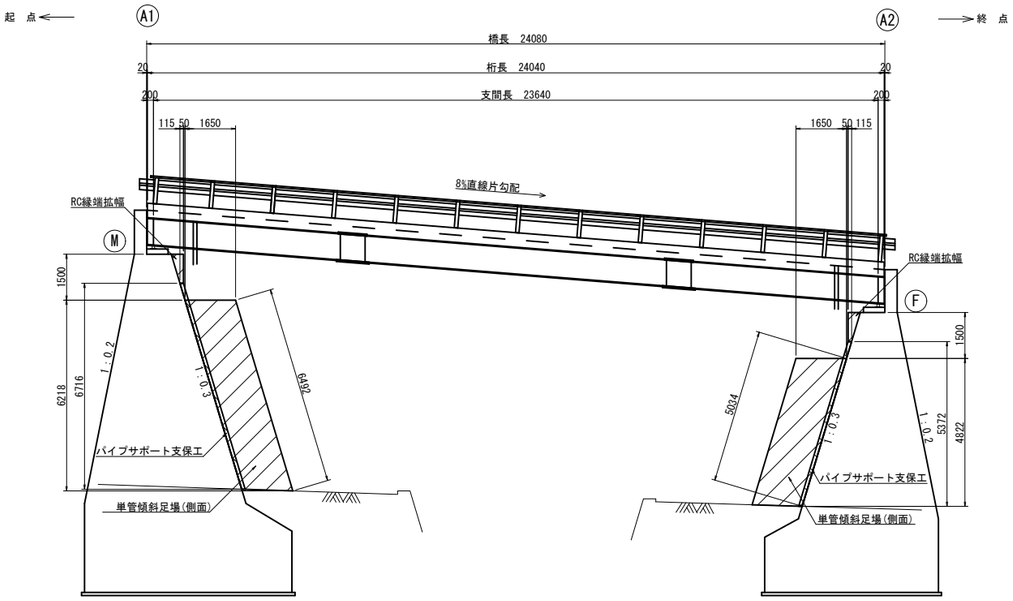
・全面吊り足場撤去

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	23/25	施工要領図(1)	縮尺	図示	
町道1号線 箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

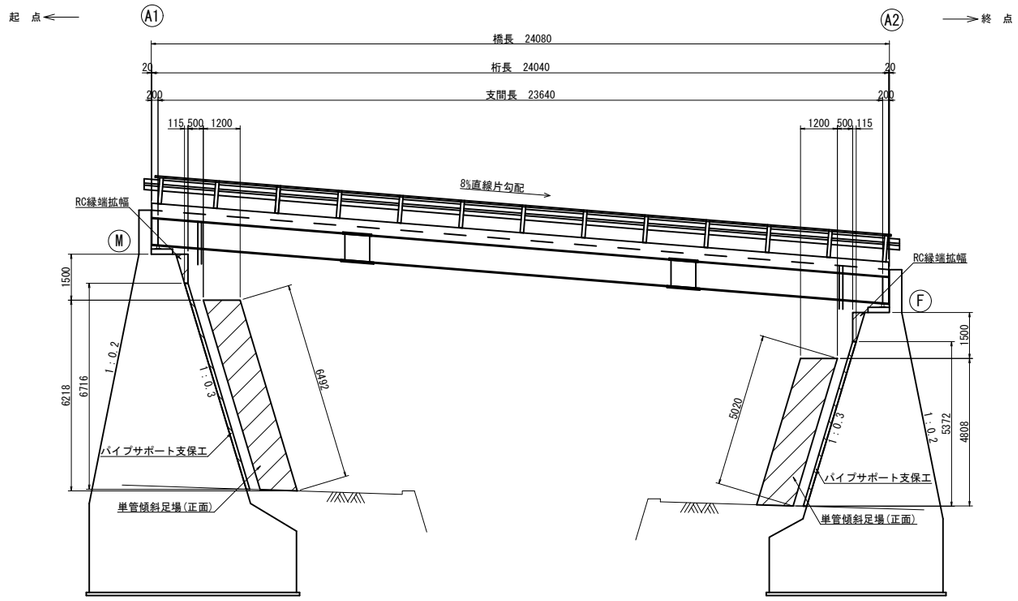
※施工に関しては参考図

日向橋　施工要領図(その2)

側　面　図 S=1:100
(1-1)



側　面　図 S=1:100
(2-2)



施工フロー

ステップ1 足場の設置

・A1・A2橋台正面に単管傾斜足場
側面に単管傾斜足場を設置する。

↓

ステップ2 支保工の設置

・A1・A2橋座RC縁端拡幅下面に
パイプサポート支保工を設置する。

↓

ステップ3 A1・A2橋座RC縁端拡幅の施工

・型枠設置
・鉄筋配筋
・コンクリート打設

↓

ステップ4 支保工の撤去

↓

ステップ5 段差防止材の施工

↓

ステップ6 排水管補修の施工

・既設排水管撤去
・新設排水管取付

↓

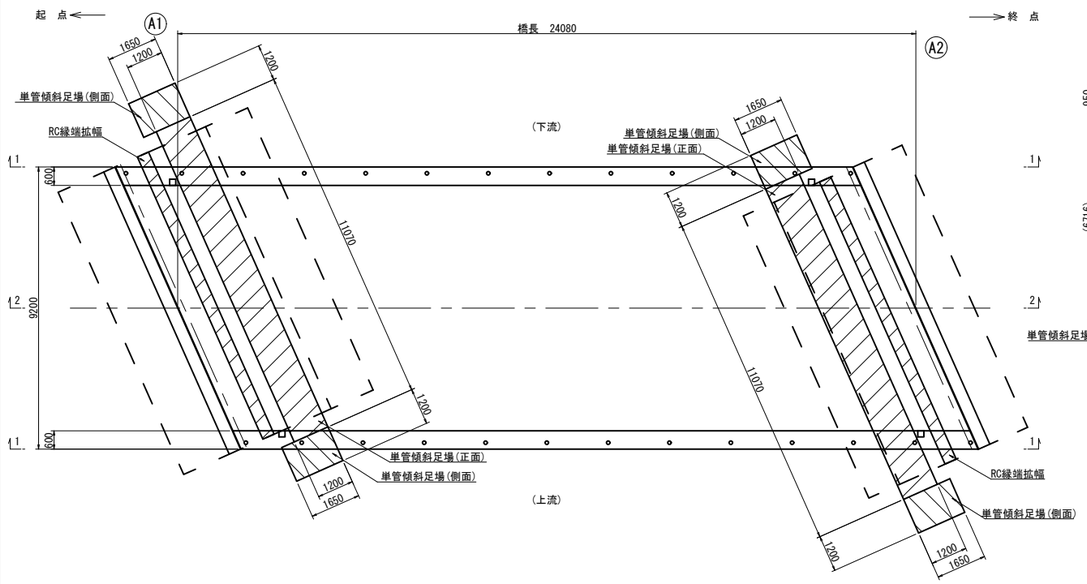
ステップ7 下部工補修の施工

・断面修復工

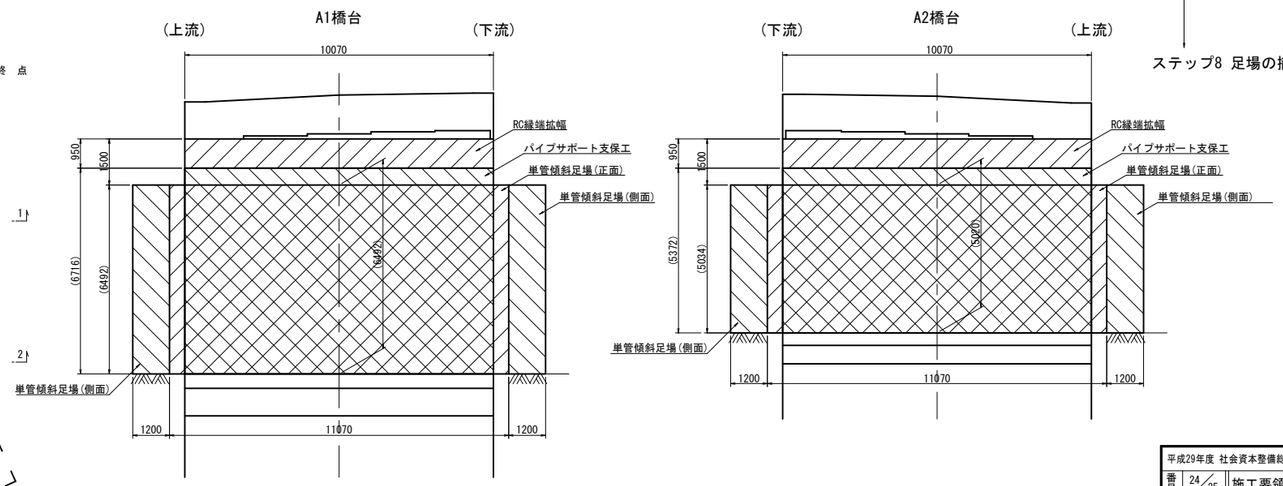
↓

ステップ8 足場の撤去

平　面　図 S=1：100



下部工正面図 S=1：100



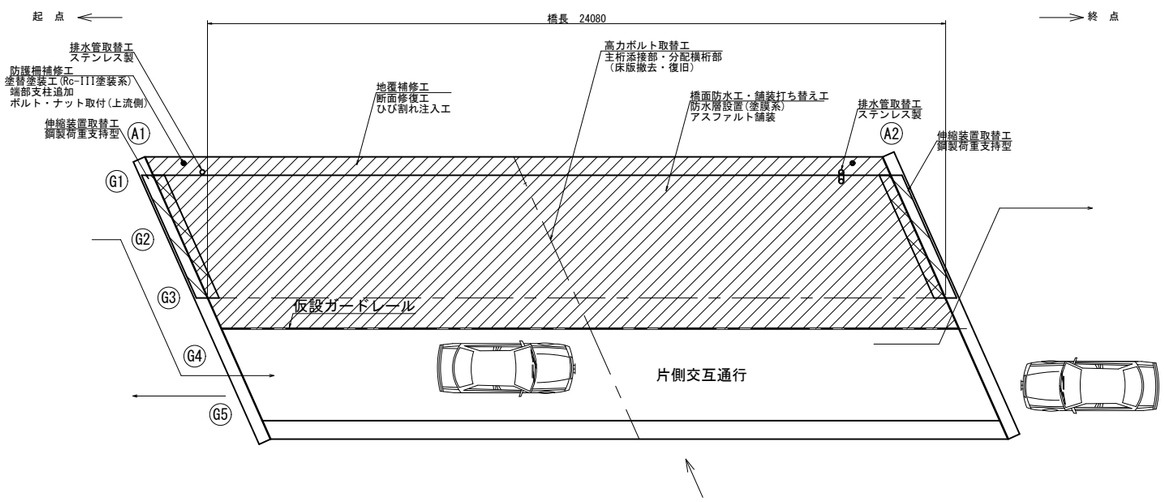
平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	24/25	施工要領図(2)	縮尺	図示	
町道1号線 箕輪町　日向橋					
課長	係長	照査	設計		
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

※施工に関しては参考図

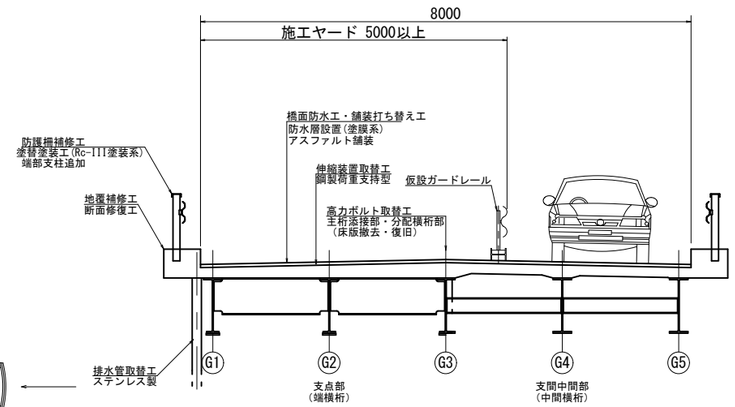
日向橋　施工要領図(その3)

左側車線施工時

平面図 S=1:100

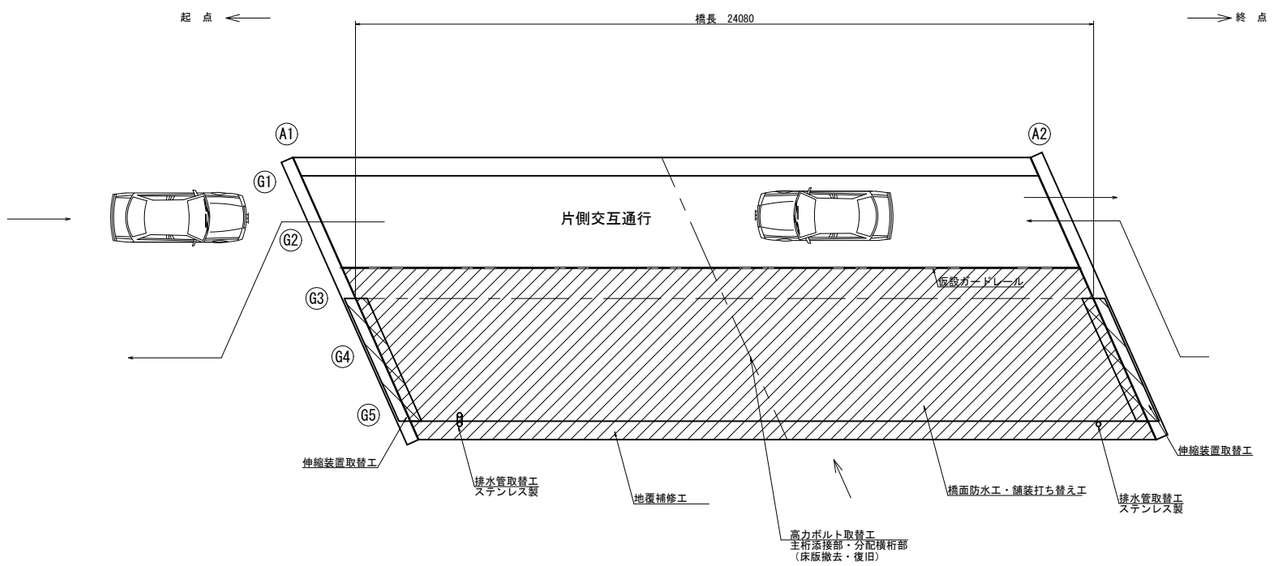


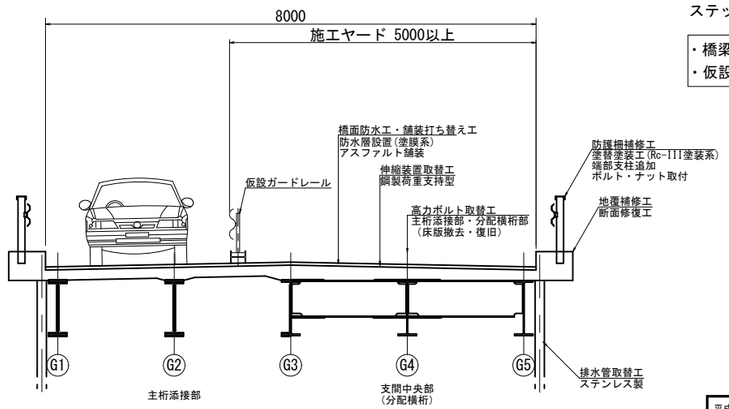
上部工断面図 S=1：50



右側車線施工時

平面図 S=1:100





施工フロー

ステップ① 仮設材施工
左側車線施工時

- 仮設ガードレール設置
- 橋梁地覆補修等足場設置

↓

ステップ② 左側車線橋面工施工時

- 舗装撤去
- 高力ボルト取替(床版内部)
- 伸縮装置取替
- 地覆補修工・防護柵取替
- 排水管取替
- 橋面防水・舗装敷設

↓

ステップ③ 仮設材施工
右側車線施工時

- 橋梁地覆補修等足場撤去
- 仮設ガードレール移動・設置
- 橋梁地覆補修等足場設置

↓

ステップ④ 右側車線橋面工施工時

- 舗装撤去
- 高力ボルト取替(床版内部)
- 伸縮装置取替
- 地覆補修工・防護柵取替
- 排水管取替
- 橋面防水・舗装敷設

↓

ステップ⑤ 仮設材施工

- 橋梁地覆補修等足場撤去
- 仮設ガードレール撤去

平成29年度 社会資本整備総合交付金事業橋梁補修工事					
番号	25／25	施工要領図(3)	縮尺	図示	
町道1号線 箕輪町　日向橋					
課長		係長		照査	設計
箕　輪　町　役　場					
設計会社	(株)ワイド	管理技術者	工藤博正		
		照査技術者	牧田一男		
測量会社					
調査会社					

※施工に関しては参考図